

京都大学

分野横断プラットフォーム構築事業

成果報告書

2017-2019年度

|| SAJI Hideo ||

京都大学では、新しい発想のもとに、西田哲学や霊長類学など、世界に類を見ない学問領域を数多く生み出してきました。

近年、研究を取り巻く環境が大きく変化し、文理融合を含む学際領域の研究の必要性が強く求められています。京都大学では学術研究支援室と学際融合教育研究推進センターが協調して、新しい研究領域を創生していく京都大学の伝統ある独創的研究創生力を背景に、自由な発想に基づき異なる領域の研究者が議論し、新しい学際研究領域を生み出す場を作ることを目指して、平成 25 年度より「百家争鳴プロジェクト」を立ち上げました。

本冊子でご紹介する「分野横断プラットフォーム構築事業」は「百家争鳴プロジェクト」のコアとなる事業で、本学に多くの優れた学際共同研究が芽吹くための土壌（プラットフォーム）の構築を目的としています。当事業が発展し、これらの活動と成果が学外にも広がり、新しい学術研究の創出が大きく進んでいくことを期待しています。



京都大学
学術研究支援室長
佐治英郎



|| SHIGETA Masayoshi ||

京都大学学際融合教育研究推進センターは、本学において学問領域を横断する学際的な教育・研究を推進するための活動を支援することを目的として、2010年3月に設置されました。2020年1月現在、分野横断型の学際的な教育や研究に関するプロジェクトを実施する36のユニットと、若手中心の6つのライトユニットがこのセンターのもとで活動しています。

近年、大学の教育研究を取り巻く環境は大きく変化しており、萌芽的分野や潜在的に連携が可能な分野におけるボトムアップ型の研究およびさまざまな教育・人材育成プログラム等、部局を越えた連携・融合の必要性はますます高まっています。当「百家争鳴」事業は、本学における分野越境を促す場面創出に大きく貢献するものであり、定量化困難な京都大学の縦横無尽な風土づくりをミッションとする学際融合教育研究推進センターのミッションとよく合致します。学際センターとしても今後もさらに当事業の発展を支えていきます。



京都大学
学際融合教育研究推進センター長
重田眞義



目次・支援対象一覧 (2017～2019 年度採択分 代表者所属・職位は企画実施当時のもの)

分野横断構築事業概要	4
▶2017 年度	
RNA 連絡会 谷口一郎 (ウイルス・再生医学研究所 助教)	5
RNA フロンティアミーティング 2017	
リアリズム文学研究会 田口紀子 (文学研究科 教授)	6
19 世紀文学と「リアリズム」ー 共時的文学現象に関する文化横断的研究	
京都大学未来創成学国際研究ユニット 村瀬雅俊 (基礎物理学研究所 准教授)	7
Exploring A Unified View Beyond Complexity	
新移民教育研究会 安里和晃 (文学研究科 准教授)	9
新移民教育研究ワークショップ：外国にルーツを持つ子どもたちへの支援について考える	
日本庭園国際研究会 柴田昌三 (地球環境学堂 教授)	10
Comparing, Understanding and Creating Japanese Gardens: A Dialogue between East and West	
紀要編集者ネットワーク 設楽成実 (東南アジア地域研究研究所 助教)	12
学術情報の国際発信力強化ー学術刊行物、紀要を中心にー	
▶ 2018 年度	
Mind Climate (精神風土) 基礎研究会 井出和希 (政策のための科学ユニット 特定助教)	13
Mind Climate (精神風土) の分類可視化プロジェクト	
Streetlight effect 精神風土研究の研究デザイン ～あたりまえを疑う～	
レジリエンスイニシアティブ 清水美香 (森里海連環学教育研究ユニット 特定准教授)	15
コモンズとしての森とレジリエンス	
森とレジリエンス学校 2018	
京都大学アカデミックデータ・イノベーションユニット 梶田将司 (学術情報メディアセンター 教授)	17
第 1 回京都大学研究データマネジメントワークショップ (京大 RDM WS)	
第 2 回京都大学研究データマネジメントワークショップ (京大 RDM WS)	
食とクラフト研究会 久野 愛 (経済学研究科 講師)	19
第一回食とクラフト研究会	
第二回食とクラフト研究会・見学会	
第三回食とクラフト研究会	
有本農園見学	
Thai Kingship Project Edoardo Siani (東南アジア地域研究研究所 特定研究員)	21
Death of an Immortal King: A Multidisciplinary Approach to the Study of Events	
地中海研究・イスラム思想研究架橋のための国際的連携構築研究会 東長 靖 (アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)	22
The II. International Conference of the Asian Federation of Mediterranean Studies Institutes	
宇宙医学研究グループ 寺田昌弘 (宇宙総合学研究ユニット 特定准教授)	23
人類の宇宙進出時に必要となる宇宙医学・生物学研究	
α×SC 深沢圭一郎 (学術情報メディアセンター 准教授)	24
α×SC2019K 通信・ネットワークとスーパーコンピュータに関するシンポジウム	
▶ 2019 年度	
サイバー・デモクラシー～デジタルツインコンピューティングにおける新しい倫理と自由～ 坂出 健 (経済学研究科 准教授)	25
The Cyber Democracy Seminar 2019 #1	
The Cyber Democracy Seminar 2019 #2 (近衛茶会)	
The Cyber Democracy Seminar 2019 #3	
大学サイバー・ガバメント&セキュリティ・ワークショップ	
英語能力測定研究者ネットワーク 西川美香子 (工学研究科附属基盤教育研究センター 講師)	27
Linking Language Assessment, Teaching and Research	
GIFT project 西垣昌和 (医学研究科 特任教授)	28
死者からの遺伝情報 (ギフト) を、家族へ。	
新しい文化政策プロジェクト 佐野真由子 (教育学研究科 教授)	30
新しい文化政策の構築をめざして	
風土・文化継承研究会 小林広英 (地球環境学堂 教授)	31
手もみ煎茶	
茅葺	
備長炭	
最終ワークショップ	
アジア太平洋地域キリスト教関連資料活用ネットワーク 家入葉子 (文学研究科 教授)	33
移住と伝播ーアジア太平洋地域におけるキリスト教関連資料、およびその活用ー	
企画実施後の展開や成果 (2017、2018 年度採択分)	34

分野横断プラットフォーム構築事業 概要

目的

多くの学際研究が芽吹き育つためのプラットフォームを構築する

対象

学際共同研究のアイデアを持ち、その実現に向けて動きだそうとしている研究者

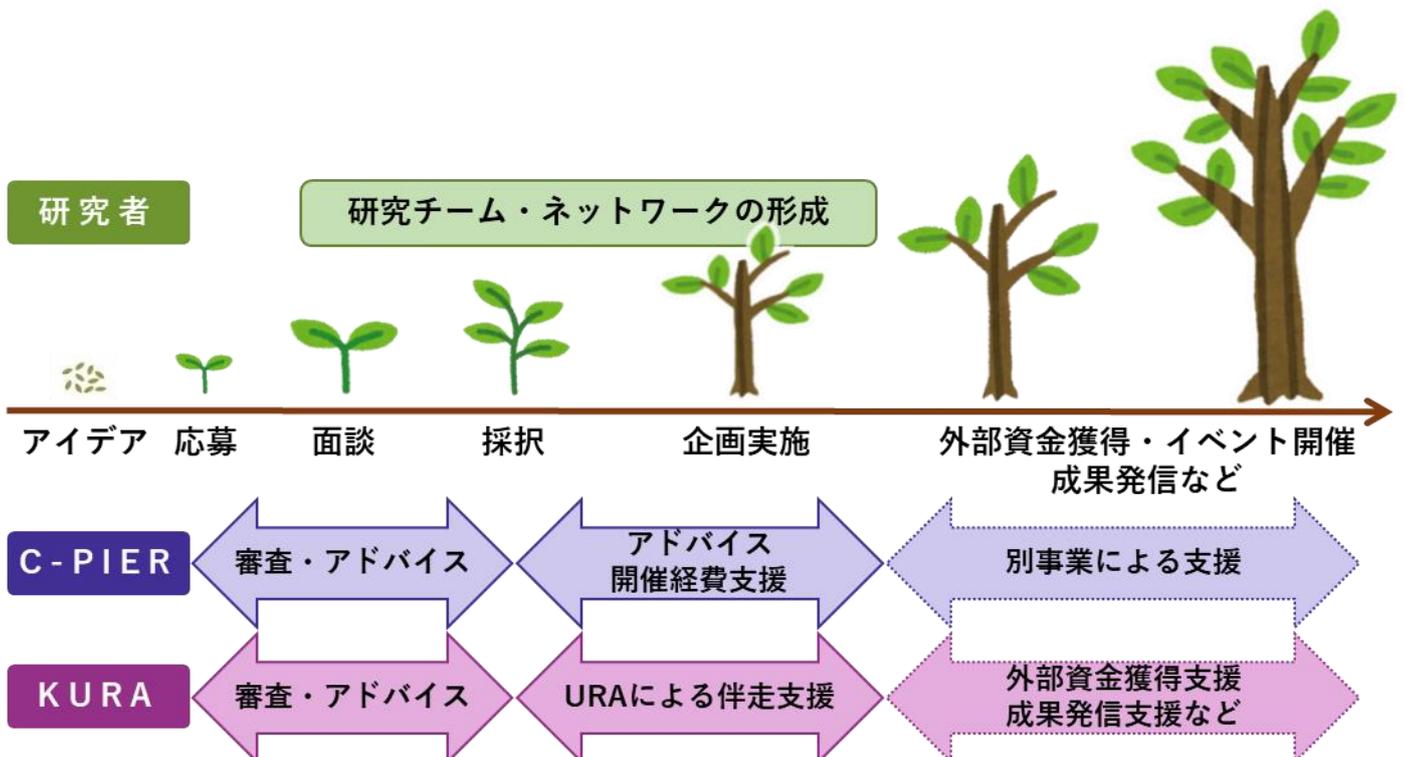
手段

ワークショップやセミナー等の開催経費を支援するとともに、運営やファシリテーションに関するアドバイスや人の紹介をおこなう

期待される効果

- 多角的で広い視野、異分野の研究者や研究者以外との意思疎通能力、意見をまとめる能力、運営や事務の能力など、学際共同研究プロジェクトをマネジメントする研究者の能力が育つ
- 学際共同研究チームや研究ネットワークが形成される
- 研究者、市民、自治体、省庁、NPO、企業等が繋がる場が形成される

【体制】学際融合教育研究推進センター（C-PIER）と学術研究支援室（KURA）が連携して運営



RNA 連絡会

RNA から生命現象をのぞいてみませんか？

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/rna> 連絡会/

【関連情報】 http://www.infront.kyoto-u.ac.jp/ex_ivr/Lab/RNAfr2017/

RNA 連絡会は、多種多様な研究分野を RNA をキーワードとして統一的に再考することで、各分野の研究および教育の協力関係を推進することを目的とします。

【メンバー】

谷口一郎 京都大学ウイルス・再生医科学研究所 助教（分子生物学、生化学）

三野享史 京都大学ウイルス・再生医科学研究所 助教（免疫学、分子生物学）



▶企画内容（ワークショップ、セミナーなど）

RNA フロンティアミーティング 2017

2017年11月8日（水）～10日（金）

比叡山延暦寺 延暦寺会館

11月8日(水)

- 14:45～15:00 事務連絡、開会の挨拶
- 15:00～16:29 Session 1
- 16:29～16:50 休憩
- 16:50～18:01 Session 2
- 18:10～19:00 夕食
- 19:00～20:00 特別講演「My RNA road」 泊幸秀（東京大学 教授）
- 20:00～21:00 自己紹介
- 21:00～ 自由討論

11月9日(木)

- 8:30～10:30 Session 3
- 10:31～12:08 Session 4
- 12:10～13:00 昼食
- 13:00～14:00 特別講演「インフルエンザウイルスの増殖機構」 野田岳志（京都大学 教授）
- 14:00～14:10 集合写真
- 14:10～18:00 自由討論、自由交流
- 18:00～19:00 夕食
- 19:00～21:03 Session 5
- 21:03～ 自由討論

11月10日(金)

- 8:30～10:43 Session 6
- 10:43～10:55 休憩
- 10:55～12:06 Session 7
- 12:10～13:00 昼食
- 13:00～13:53 Session 8
- 13:55～14:05 ベストプレゼンテーション賞授賞式
- 14:05～14:15 閉会の挨拶



【協賛】 日本学術振興会 新学術領域研究

「ノンコーディング RNA ネオタクソノミ」

日本学術振興会 新学術領域研究「新生鎖の生物学」

日本学術振興会 研究拠点形成事業「ウイルス感染と宿主応答の総合的理解に向けた国際研究拠点」

【協力】 京都大学研究大学強化促進事業「百家争鳴」プログラム

【助成】 公益財団法人 精神・神経科学振興財団

公益財団法人 サントリー生命科学財団

リアリズム文学研究会

〈リアリティ〉という〈フィクション〉について考える、人文系研究者たちの語圏横断的なネットワークです。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/201703/>

2014年に京都大学を拠点として近代ヨーロッパ文学を専門とする若手研究者・大学院生の有志を中心に発足した研究グループで、文学における「リアリズム」に関連する基礎文献の講読や勉強会を行ってきました。現在は年に3回のペースで、リアリズム文学および関連する時代の文学作品に関する研究報告会を開催しています。

【メンバー】

- 田口紀子 京都大学文学研究科 教授（フランス語学フランス文学）
大北彰子 京都大学文学研究科 博士後期課程研究指導認定退学（フランス語学フランス文学）
霜田洋祐 京都大学文学研究科 非常勤講師／東京大学 日本学術振興会特別研究員PD（イタリア語学イタリア文学）
西尾宇広 慶応義塾大学 専任講師（ドイツ語学ドイツ文学）
野田 農 同志社大学 非常勤講師（フランス語学フランス文学）
松浦菜美子 神戸大学 非常勤講師（フランス語学フランス文学）
浅井航洋 京都女子大学 非常勤講師（日本文学）
宇和川雄 関西学院大学 助教（ドイツ語学ドイツ文学）
片山浩史 京都大学 非常勤講師（イタリア語学イタリア文学）



▶企画内容（ワークショップ、セミナーなど）

19世紀文学と「リアリズム」 — 共時的文学現象に関する文化横断的研究

2018年2月3日（土）

京都大学 国際科学イノベーション棟5階（会議室 5a/5b）

趣旨：「文学におけるリアリズム」を共通の主題として設定し、フランス・ドイツ・イタリア文学を専門とする招聘講師3名による研究発表と、それとは異なる分野（日本文学、西洋美術史等）の研究者からのコメントおよびを交えた全体討論を通して、19世紀文学の新たな可能性を発掘するとともに、各語圏の研究者のあいだで19世紀文学に対する一定の共通認識を確立することを目指す。

13:00 開会の挨拶 田口紀子（京都大学文学研究科 教授）

13:10 研究発表

・「リアリズム文学における知と視線—19世紀フランス小説にそくして—」

小倉孝誠（慶応義塾大学 教授） 司会：大北彰子（京都大学）

・「「中心」と「周縁」との力学的関係—「リアリズム」と

19世紀中葉のドイツ語圏文学—」磯崎康太郎（福井大学 教授）

司会：西尾宇広（慶應義塾大学）

・「天使が地上に降りる時—『神曲』におけるリアリズム試論—」

村松真理子（東京大学 教授） 司会：霜田洋祐（学振特別研究員PD）

16:10 コメント

・木島菜菜子（同志社大学／英語学英文学）

・Irina HOLCA（京都大学／日本文学）

・西嶋亜美（尾道市立大学／フランス美術史（ドラクロワ））

17:25 全体討議

18:30 意見交換会（終了 20:30）

2018年 2月3日(土)
19世紀文学とリアリズム
—共時的文学現象に関する文化横断的研究—
リアリズムとは何か？
フランス文学・ドイツ文学・イタリア文学…
人文学の垣根を超えて
〈リアリティ〉という〈フィクション〉について考える！

2月3日(土) 13:00-20:30
京都大学(吉田キャンパス)
国際科学イノベーション棟5階
(会議室 5a/5b)

12:30 受付開始
13:00 開会の挨拶
13:10 研究発表
・小倉 孝誠
・磯崎 康太郎
・村松 真理子
16:10 コメント
・木島 菜菜子 (同志社大学)
・Irina HOLCA (京都大学)
・西嶋 亜美 (尾道市立大学)
17:25-18:15 全体討議
18:30-20:30 意見交換会

小倉 孝誠 (慶応義塾大学 教授)
リアリズム文学における知と視線
—19世紀フランス小説にそくして—
司会：大北 彰子 (京都大学)

磯崎 康太郎 (福井大学 准教授)
「中心」と「周縁」との力学的関係
—「リアリズム」と19世紀中葉のドイツ語圏文学—
司会：西尾 宇広 (慶應義塾大学)

村松 真理子 (東京大学 教授)
天使が地上に降りるとき
—『神曲』におけるリアリズム試論—
司会：霜田 洋祐 (学振特別研究員PD)

※「意見交換会」は会費制です。事前申込をお願いします。
(詳細は下記ウェブページを参照)
京都大学学際融合教育研究推進センター(参加できる研究)：<http://www.cider.kyoto-u.ac.jp>
京都大学学術研究奨励金委員会 K. U. Research: <http://research.kyoto-u.ac.jp/>
参加できる研究 はこちら！ 主催：リアリズム文学研究会 realism@frames.jp

京都大学未来創成学国際研究ユニット

奇跡への挑戦、未来の創成に取り組んでいます！

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/京都大学未来創成学国際研究ユニット/>

[関連情報] <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~future/>

異分野を統合することの知的冒険によって、生命・物質・こころの世界、あるいは人間社会・教育・経済を貫く普遍法則や創発原理を探求し、未来を方向づけるパラダイム転換を目指しています。

[メンバー]

村瀬雅俊 京都大学基礎物理学研究所 准教授 (生命の大統一理論、未来創成学)
吉村一良 京都大学理学研究科化学専攻 教授 (超伝導物理学)
阿部健一 総合地球環境研究所 教授 (科学コミュニケーション)
村瀬偉紀 長崎大学大学院環境科学 DC1 (魚類生態学)
大野照文 三重県総合博物館 館長 (古生物学)
持留沙智子 京都大学基礎物理学研究所 ユニット事務局



▶企画内容 (ワークショップ、セミナーなど)

Exploring A Unified View Beyond Complexity

2018年2月15日(木)、16日(金)

京都大学 時計台記念館国際交流ホール III

趣旨：世界は創発現象に満ちている。それは、宇宙の創成にはじまり、生命の起源やこころの進化から、文明の誕生、人類の叡智による創造性、さらには予期せぬ経済活動や自然現象など多岐にわたる。しかし、これら物質・生命・こころ・人間・自然・宇宙現象における一見バラバラな創発現象の根底に、それらを貫く普遍法則・創発原理があるに違いない。これまでに、素粒子物理学においては「大統一理論構築の試み」はなされているが、文系・理系における多様な学際分野の大統一理論の模索はまったくなされておらず、その意味で大統一理論を探究することは新規性が極めて高い。

2018年2月15日(木)

11:00~12:30

第一部 社会現象と複雑生態システム 座長：大野照文 (三重県総合博物館)

「未来創成学 大統一理論への挑戦」村瀬雅俊 (京都大学基礎物理学研究所)

「生態学序説Ⅰ」Tae-Soo Chon (韓国国立大学)

「パンデミックインフルエンザは予防できるかーパンデミック (H1N1) 2009 ウイルス伝播と流行ダイナミクスに関する検討ー」井内田科子 (京都大学医学研究科)

12:30~13:30 昼食

13:30~15:00

第二部 人間現象の心理・精神学、生命現象、生態系 座長：肥田野登 (東京工業大学)

「非線形過程としての学習」Remo Job (トレント大学心理学部)

「生物界の右左」藤井紀子 (京都大学原子炉実験所)

「生態学序説Ⅱ」Tae-Soo Chon (韓国国立大学)

15:00~15:30 休憩

15:30~16:30

第三部 生命現象と宇宙の不思議 座長：吉村一良 (京都大学大学院理学研究科化学専攻)

「東洋の目」石原幸一 (東洋医学)

「均一単純な塵からの複雑な銀河形成」Antonio De Fliche (京都大学基礎物理学研究所)

16:30~16:40 休憩

第四部 生物環境適応の複雑性 座長：Tae-Soo Chon (韓国国立大学)

「両側回遊魚アユにみられる生活史形質の時空間的変異」村瀬偉紀 (長崎大学大学院環境科学)

「海産無脊椎動物に見られる生活史適応の複雑性」入江貴博 (東京大学大気海洋研究所)

18:00~20:00 レセプション

ゲスト：森 悠子 (音楽監督)、石上真由子 (バイオリニスト)

2018年2月16日 (金)

10:00~11:30

第五部 進化と学習 座長：Remo Job (トレント大学心理学部)

「創造の過程とその結果に対する一考察—工芸制作における協働とすりあわせ—」前崎信也 (京都女子大学)

「アート創造による拡張自己の形成—人間行動の複雑性を越えて—」肥田野登 (東京工業大学)

「生態学序説III」Tae-Soo Chon (韓国国立大学)

11:30~13:00 昼食

13:00~14:30

第六部 環境と社会 座長：阿部健一 (総合地球環境学研究所)

「学校教育とこころの進化」大野照文 (三重県総合博物館)

「あえて家族のケアを行う者についての医療経済学的課題—1型糖尿病を例として—」迫田さやか (同志社大学経済学部)

「精神環境看護学」村瀬智子 (日本赤十字豊田看護大学)

「生態学序説IV」Tae-Soo Chon (韓国国立大学)

14:30~15:00 休憩

15:00~16:00 自由討論 座長：村瀬雅俊 (京都大学基礎物理学研究所)

ショートプレゼンテーション 嶋田ありさ (京都大学理学研究科)

16:00 終了

【共催】京都大学研究連携基盤未来創成学国際研究ユニット

京都大学基礎物理学研究所

京都大学統合複雑系科学国際研究ユニット

京都大学学際融合教育研究推進センター

総合地球環境学研究所



新移民教育研究会

教育・就労・家庭環境・アイデンティティ形成など多様な領域を扱います。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/新移民教育研究会/>

教育・就労・家庭環境・アイデンティティ形成など多様な領域を扱う研究会グループです。

[メンバー]

- 安里和晃 京都大学文学研究科 准教授 (移民研究)
江夏亜希子 京都大学人間・環境学研究所 修士課程1年
(社会言語学、日本語教育)
山淵あいら 京都大学文学部社会学専修 3回生 (社会学理論)
矢部東志 京都大学教育学研究科 修士課程1年
(教育社会学、多文化教育)

新移民教育研究会

▶企画内容 (ワークショップ、セミナーなど)

新移民教育研究ワークショップ：外国にルーツを持つ子どもたちへの支援について考える

2018年2月24日(土)

京都大学 国際科学イノベーション棟会議室 5a、5b

趣旨：本企画は外国にルーツを持つ子どもたちへの教育を学際的アプローチから考えるワークショップである。安里研究室では彼ら/彼女に対する学習支援活動を継続して行ってきた。活動を通じてメンバーが感じた問題意識を専門家、政策関係者、現場従事者の方々と共有し、学術的理論へ発展させたい。近年、外国人児童生徒に関する教育施策は一つの転換期を迎えている。本ワークショップで得た知見が、このような施策に一石を投じる礎となることを期待したい。

10:00～10:20 開催趣旨 安里和晃 (京都大学文学研究科 准教授)

10:20～10:30 活動報告

江夏亜希子 (京都大学人間・環境学研究所 修士課程1年)

山淵あいら (京都大学文学部社会学専修 3回生)

矢部東志 (京都大学教育学研究科 修士課程1年)

10:30～10:30 話題提供① 額田聖菜 (独立行政法人国際協力機構)

11:00～12:00 話題提供② 高畑 幸 (静岡県立大学国際関係学部 准教授)

12:00～12:45 ラウンドテーブルディスカッション

12:45～13:45 ブレイクタイム

13:45～14:45 話題提供③ 伊藤充哉 (文部科学省初等中等教育局財務課)

14:45～15:45 話題提供④ 増田麻美子 (文化庁文化部国語課)

15:45～16:45 話題提供⑤ 藤川純子 (四日市市立笹川西小学校)

16:45～17:45 ラウンドテーブルディスカッション

17:45～18:00 総括

日本庭園国際研究会

庭園研究についての異分野的・異文化的な交流をはじめよう！

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/1511/>

日本庭園について、分野と文化、そして年齢研究経歴の壁を越えた交流を図り、世界の庭園研究の発展に寄与する研究会。

【メンバー】

- 柴田昌三 京都大学地球環境学 教授（景観生態保全論）
張 平星 京都大学農学研究科 博士後期課程
（造園学：庭園史と造園材料）
熊倉早苗 京都大学農学研究科 博士後期課程
（造園学：イギリスの日本庭園）
スコルシ ワナ ロレダナ
京都大学人間・環境学研究科 博士後期課程
（日本庭園論、美術史）
藤枝絢子 京都大学学術研究支援室 リサーチアドミニストレーター（建築学、地域研究）
玉重佐知子 文化ジャーナリスト（庭園文化、西洋美術史）



▶企画内容（ワークショップ、セミナーなど）

Comparing, Understanding and Creating Japanese Gardens: A Dialogue between East and West（日本庭園の比較、理解と創造：東と西の対話）

2018年2月24日（土）

清風荘、北部総合教育研究棟小林・益川記念室（セミナー室）

清風荘

- 10:30～10:35 見学会趣旨説明 柴田昌三（京都大学地球環境学 教授）
10:35～10:45 参加メンバー自己紹介
10:45～11:45 清風荘の建築と庭園について 山田拓広（株式会社花豊造園 代表取締役社長）

北部総合教育研究棟 小林・益川記念室

- 13:00～13:10 趣旨紹介 司会：柴田昌三（京都大学地球環境学 教授）
13:10～13:35 話題提供1「Japanese Garden Construction Overseas in Showa Period」中村 一（京都大学名誉教授）
13:35～14:00 話題提供2「Nature reclaims the City: Space and Maintenance of Gardens Designed by Jihei Ogawa and Preserved Gardens of Kanazawa City」Juan Pastor Ivars（国連大学サステイナビリティ高等研究所 研究員）
14:00～14:25 話題提供3「Civic Japanese Gardens in Modern Japan」鈴木 誠（東京農業大学造園学科 教授）
14:25～14:35 Tea Break 日本茶ブレイク1
14:35～15:00 話題提供4「The Visual Signature of Japanese Gardens」
Gert van Tonder（視学認知科学 Ph.D.、スタンフォード大学／プリンストン大学 客員教授）
15:00～15:15 話題提供5「Material Use of the White Sand Spaces in Traditional Japanese Gardens」
張 平星（京都大学農学研究科 博士後期課程）
15:15～15:30 話題提供6「“Nature” in the Japanese Gardens of Meiji Period」
Oana Loredana Scorus（京都大学人間環境研究科 博士後期課程）
15:30～15:55 話題提供7「Creative Management: Some Thoughts on Garden Management in Sweden and Japan」
Catherine Szanto（パリ・ラ・ヴィレット国立建築学院 助教）
15:55～16:05 Tea Break 日本茶ブレイク2

16:05~16:40 話題提供者によるディスカッションと質疑応答

中村 一、Juan Pastor Ivars、鈴木 誠、Gert van Tonder、Catherine Szanto

16:40~17:40 話題提供 8 「Spending time in the Garden: East-West Conversation over a Bowl of Tea」

Bruce Hamana (裏千家学園茶道専門学校 講師)

茶道実演、参加者による意見交換、フリーセッショントーク

17:50~18:00 まとめと今後の展望

2018 年日本庭園国際研究会
2018 年 2 月 24 日 (土)、16:30~17:40、京都大学

2018 International Seminar on Japanese Gardens
**Comparing, Understanding and Creating Japanese Gardens:
A Dialogue between East and West**
2018/2/24 (Sat), 16:30-17:40, Kyoto University



• **LANGUAGE: ENGLISH, FREE OF CHARGE**
共通語: 英語、参加費無料

• **PURPOSE 趣旨**
To bring together researchers from various fields who are interested in sharing their thoughts on Japanese gardens, to foster an interdisciplinary and cross-cultural network.
東西文化の多様な観点から、日本庭園の理解・創造について議論し、分野と文化の壁を越えた交流を促進し、国際的なネットワークを構築する。

• **PARTICIPANTS (MAXIMUM 40) 参加者 (定員: 40 人)**
Anyone who is interested in gardens and can communicate by English.
No limitation on nationality, career or academic field. Students are also welcome.
Now we already have 30 participants from 11 countries, including professors, researchers, students, gardeners and journalists.

国籍不問、会話が、英語で交際できる人。
庭園研究者、庭園に興味を持っている産官学の人々、学生・生徒
現時点の参加費: 11ヶ国・30人 (大学教授、研究者、学生、庭師、ジャーナリストなど)

紀要編集者ネットワーク

紀要の未来を語りませんか？

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/1610/>

これまでありそうでなかった本学の紀要編集者間のネットワーク。
本ネットワークでは学内・外の紀要の編集者を広く結び、ともに紀要の未来を考え、その可能性を追求します。(紀要：大学・研究機関発行の学術誌)

【メンバー】

設楽成実 京都大学東南アジア地域研究研究所 助教（学術出版）
北村由美 京都大学附属図書館 准教授（東南アジア研究）



▶企画内容（ワークショップ、セミナーなど）

学術情報の国際発信力強化—学術刊行物、紀要を中心に—

2018年2月26日（月）

京都大学 稲盛財団記念館 中会議室

趣旨：今回のセミナーでは、雑誌編集者および機関リポジトリの担当者をお招きし、学術情報の国際発信力強化に向けた取組や今後の展開、課題などについてお話いただきます。またディスカッションでは、参加者とともに学術情報の国際発信のあり方や国際発信をめぐる留意点について考えます。本セミナーが、雑誌編集に関わる方々の交流の場となればと考えております。

14:30 開会

14:35～14:40 趣旨説明

14:40～15:00 話題提供1：John Breen氏（国際日本文化研究センター Japan Review 誌エディター）

15:00～15:20 話題提供2：John LoBreglio氏（オックスフォード・ブルックス大学、
大谷大学東方仏教徒協会 The Eastern Buddhist 誌エディター）

15:20～15:40 話題提供3：富岡達治氏（京都大学附属図書館）

15:50～16:40 ディスカッション

司会：Nathan Badenoch氏（京都大学東南アジア地域研究研究所 Southeast Asian Studies 誌エディター）

コメンテーター：鈴木哲也氏（京都大学学術出版会）

16:40～16:50 まとめ・閉会

16:50～ 懇親会 [茶話会]

第2回紀要編集者ネットワーク・セミナー

学術情報の国際発信力強化
—学術刊行物・紀要を中心に—

日時 2月26日(月) 14:30-16:50
場所 京都大学稲盛財団記念館3階 中会議室

14:30	開会
14:35-14:40	趣旨説明
14:40-15:00	話題提供1 ジョン・ブレン氏(国際日本文化研究センター、Japan Review誌エディター)
15:00-15:20	話題提供2 ジョン・ロブレグリオ氏(オックスフォードブルックス大学、大谷大学東方仏教徒協会 The Eastern Buddhist誌エディター)
15:20-15:40	話題提供3 富岡達治氏(京都大学附属図書館)
15:50-16:40	ディスカッション 司会：ネイサン・バデンノック氏(京都大学東南アジア地域研究研究所 Southeast Asian Studies誌エディター) コメンテーター：鈴木哲也氏(京都大学学術出版会)
16:40-16:50	まとめ・閉会
16:50-	交流会

参加対象者：学術刊行物の編集関係者、図書館員、学術出版関係者、LRA、図書館担当者など

【本学編集者ネットワーク】では、大学や研究機関の発行する学術刊行物の編集関係者を対象とし、本学編集関係者と図書館関係者、学術出版関係者、リサーチ・アジア・ニコレーター等を結び、書籍上のノウハウの共有や相互連携促進、学術の国際発信力やその実証的効果へつなげることを目指しています。

今回のセミナーでは、雑誌編集者および機関リポジトリの担当者をお招きし、学術情報の国際発信力強化に向けた取組や今後の展開、課題などについてお話いただきます。またディスカッションでは、参加者とともに学術情報の国際発信のあり方や国際発信をめぐる留意点などについて考えます。

本セミナーでは、学術情報発信に関わる方々の交流の場となればと考えております。閉会後、同席で懇話会や交流会を予定しておりますので、是非ご参加ください。

申込受付フォームは <https://goo.gl/9dM4Mj>
お問い合わせ先 設楽成実(京都大学東南アジア地域研究研究所) shiratake@ccas.kyoto-u.ac.jp

【本学編集者ネットワーク】 刊行誌 東洋研究[C]紀要(年見集) 一冊2冊(月見集)は本学の編集者の関心と学術的価値の共有を促進
【研究大学強化推進事業「国際化推進」プログラム】 刊行誌 東洋研究[C]紀要(年見集)は本学の編集者の関心と学術的価値の共有を促進

Mind Climate（精神風土）基礎研究会

人間社会ではヒトの心情に起因する問題が跡を絶ちませんが私達はもっと賢くなれると思いませんか？

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/mind-climate>（精神風土）基礎研究会/

Mind Climate（地域や環境に偏在するヒト集団の価値観、道徳観、世界観等）の実態、形成過程、変遷、社会的機能の分析を試みるグループ。

[メンバー]

- 井出和希 京都大学学際融合教育研究推進センター／
政策のための科学ユニット 特定助教（薬学）
- 後藤忠徳 京都大学大学院工学研究科 准教授（地殻環境工学）
- 上野ふき 名古屋大学情報科学研究科 博士後期課程（人間情報学）



▶企画内容1（ワークショップ、セミナーなど）

Mind Climate（精神風土）の分類可視化プロジェクト

2018年9月6日（木）、7日（金）

京都大学 学際融合教育研究推進センター 会議室

[メンバー以外参加者]

- 久木田水生* 名古屋大学情報科学研究科 准教授（倫理学）
- 熊澤峰夫* 名古屋大学名誉教授（地球惑星科学）
- 駒井章治* 奈良先端科学技術大学院大学大学院バイオサイエンス研究科 准教授（神経科学）
- 杉田 暁 中部大学中部高等学術研究所 准教授（デジタルアース）
- 中村秀規 富山県立大学工学部 講師（社会工学）
- 野内 玲 信州大学医学部／公正研究推進協会（APRIN） 特任助教（科学哲学）
- 林 能成* 関西大学社会安全学部 教授（防災科学）
- 東原紘道* 東京大学名誉教授（土木工学）
- 平理一郎* ノースカロライナ大学神経科学センター 海外特別研究員（神経科学）
- 宮野公樹* 京都大学学際融合教育推進センター 准教授（学問論）
- 村上祐子* 立教大学理学部共通教育室 特任教授（論理学）

趣旨：本ワークショップでは、Mind Climate（精神風土：価値観、道徳観、世界観等の総称）に関心を持っている人文、社会、理、工学の専門家を招聘し、1泊2日のブレインストーミングを行う。具体的にはさまざまな MC の事例を出し合い、それらを①空間的側面（風土：実際に MC の存在する地域の分布、共同体の規模、クラスター性、他の MC との関係性など）、②時間的側面（MC の生成・消滅・変遷の時間スケール）および、③内実（共有されている MC のありのままの内容）の三つの座標軸で分類する。1日目に MC の具体的事例出しと分類座標軸の妥当性について議論を行い、仮分類を行う。2日目に改めて分類の再考を行い、可視化のためのグラフを作成する。

9月6日（木）

- 10:00 MC 研究の背景説明、MC 定義の確認、分類座標軸の確認
- 10:30 ブレインストーミング 1
（MC の具体的事例出し）
- 12:00 昼食休憩
- 13:00 ブレインストーミング 2
（空間、時間、内実の具体的事例出し）
- 17:00 仮分類を行い終了

9月7日（金）

- 10:00 1日目の内容の振り返り
（2日目のみの参加者のため）
- 10:30 仮分類の再考
- 12:00 昼食休憩
- 13:00 可視化用グラフの作成
- 17:00 終了

▶企画内容2 (ワークショップ、セミナーなど)

Streetlight effect 精神風土研究の研究デザイン ～あたりまえを疑う～

2019年2月19日(火)、20日(水)

京都大学 学際融合教育研究推進センター

[メンバー以外参加者]

上のワークショップ参加者のうち、*を付した参加者

鈴木秀憲 三重大学人文学部 特任准教授(科学哲学)

鄭 雄一 東京大学大学院工学系研究科/医学系研究科 教授(バイオエンジニアリング)

趣旨：他に重要な事がある事をわかっているにもかかわらず、できることのみに従事する streetlight effect に、研究者ですら落ち至りやすい現状がある。もちろん逆に果敢に未知の領域に挑戦していく研究者もいる。私たちはそれらのマインドを動機づけているのは個人の生い立ちだけでなく、研究室や所属分野の精神風土の影響が大きいのではないかと考えている。そのため精神風土を探る大規模なインタビュー調査を行うことを予定しているが、本ワークショップではその研究デザインを行う。以下の5つの項目を中心に議論する。

- 1) 本研究は何のためか〈背景〉
- 2) どういう結果を得たいか〈意義〉
- 3) 研究マインドに影響する精神風土にはどのようなものがあるのか〈仮説〉
- 4) 対象者の決定(年齢、役職の範囲など)
- 5) 何を聞けば研究マインドがわかるか〈質問リスト〉
- 6) どのように聞くのが効果的か〈インタビュー方法〉
- 7) 結果の分析は何を用いるか〈結果の出し方〉
- 8) 役割分担の決定

1日目：1～5を中心に議論する。

2日目：6～8を中心に議論する。

2月19日(火)

10:00 開始

研究の背景、意義、仮説など研究全体の事についての議論

12:00 昼食休憩

インタビュー対象者、質問内容などについての議論

17:00 終了

2月20日(水)

10:00 開始

講演：「精神風土についての一考察」鄭雄一

12:00 昼食休憩

インタビュー方法、結果の分析方法、役割分担についての議論

15:00 終了

レジリエンスイニシアティブ

レジリエンスと自然・人・社会の繋ぎに意識を向けたフィールドワークとワークショップを開催します。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/https%3Aresilience-initiative.com%E3%80%80/>

【メンバー】

- 清水美香 京都大学学際融合教育推進センター／
森里海連環学教育研究ユニット 特定准教授
(公共政策、社会システムデザイン、レジリエンス)
- 徳地直子 京都大学フィールド科学教育研究センター 教授 (森林生態学)
- 小島あゆみ フリー科学ライター
- 小東茂夫 エニシア株式会社 代表取締役



▶企画全体について

趣旨：本企画は、3つのステージから構成され、すべてのステージを一貫して記録し、今後のレジリエンス活動の軸をつくります。主な流れとして、1)「コモンズとしての森」について、学際的研究者自身がフィールドワークを通して気づきを得て、2)それを踏まえて、「コモンズとしてのレジリエンス」にどのような示唆が得られるのかを中心に、一般市民に開かれた場で、学際的研究者による対話フォーラムを開催し、3) 今度は一般の人々を対象に、森の中でレジリエンスと自然・人・社会の繋ぎに意識を向けたフィールドワークとワークショップを開催します。

▶企画内容1 (ワークショップ、セミナーなど)

コモンズとしての森とレジリエンス

2018年9月8日(土)

京都大学 芦生研究林 (京都府美山町)

[上記メンバー以外の参加者]

日置道置 輪王寺(宮城県仙台市) 住職/森の防潮堤協会 理事長
藤原成一 生存科学研究所 常務理事/元 日本大学芸術学部 教授

趣旨：「コモンズとしての森」について、学際的研究者自身がフィールドワークを通して気づきを得ます。これに続く企画のイベントとして実施するものです。

- 10:30 JR 園部駅集合、車で移動
12:00 芦生研究林到着事務所着
12:00~13:00 昼食
13:00~17:00 研究林内フィールドワーク 案内講師 徳地直子
17:30 事務所発 JR 園部駅へ



▶企画内容2 (ワークショップ、セミナーなど)

コモンズとしての森とレジリエンス

2018年9月9日(日)

Kyoto Impact Hub

趣旨：一般市民に開かれた対話型フォーラムです。様々な分野からの研究者・実践者が集結し、イベントを踏まえて、「コモンズとしてのレジリエンス」についてそれぞれの視点を介して参加者と対話し、多様な気づきを引き出します。私たちの生活に身近な自然である森を通じて、人と自然と社会の関係性を捉え直し、そこから、自分自身やコミュニティの

「レジリエンス」(変化する力、柔軟な器量)について共に考え、人間社会と自然の共生の在り方を見直したいと思います。

- 13:30 オープニング
 14:00~15:20 「コモンズとして森とレジリエンス」
 ◇スピーカー◇
 -日置道置(金剛竇山輪王寺 住職/
 一般社団法人 森の防潮堤協会 理事長)
 -藤原成一(生存科学研究所 常務理事/
 元 日本大学芸術学部 教授)
 -徳地尚子(京都大学フィールド科学教育研究センター 教授)
 -清水美香(京都大学森里海連環学教育研究ユニット 特定准教授)
 15:20~16:00 協働対話



「森から学ぶこと、レジリエンスの視点から私たちができること」

【共催】京都大学森里海連環学教育研究ユニット／京都大学レジリエント社会創造研究会／財団法人 生存科学研究所
 【協力】京都大学研究大学強化促進事業「百家争鳴プログラム」

▶企画内容3 (ワークショップ、セミナーなど)

森とレジリエンス学校 2018

2018年11月18日(日)
 京都大学 芦生研究林(京都府美山町)

趣旨:「コモンズ」としての地球社会やコミュニティの中で、私たちはどのような存在であり得るのか、一人一人は何ができるのか。森の中で、フィールドワークやワークショップを通して、人と人、人と自然、人と社会の関係を異なる角度から共に見直し、「レジリエンス」を自分事として体感していただくための1日特別プログラムを開催します。

- 8:30 JR 園部駅集合、マイクロバスで移動
 10:00 芦生研究林事務所着
 10:00~10:30 インスピレーショントーク
 清水美香「森とレジリエンス」
 10:30~12:30 研究林内フィールドワーク
 案内講師:徳地直子
 12:30~13:30 昼食
 13:30~15:00 ワークショップ1「森から得る『気づき』」
 ファシリテーター:小島あゆみ、小東茂夫
 15:00~16:00 天空の茶室
 (人と人の境界線、人と自然の境界線を体感する) 茶道指導:早川沙織、岡田ちから
 16:00~16:45 ワークショップ2「気づきからコモンズの創造へー日常生活に活かすー」
 ファシリテーター:小島あゆみ、小東茂夫
 16:45~17:00 終わりに&これから 清水美香
 「森とレジリエンス学校 2018」受講修了証付与
 18:45 JR 園部駅、解散



【共催】京都大学森里海連環学教育研究ユニット／京都大学レジリエント社会創造研究会
 【協力】京都大学研究大学強化促進事業「百家争鳴プログラム」

京都大学アカデミックデータ・イノベーションユニット

研究データマネジメント、それは国際通用性のある一流研究者に求められる基本スキルです。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/http%3Awww.cpier.kyoto-u.ac.jp/aboutacd/>

京都大学の研究者の研究活動によって生み出される多様なアカデミックデータを適切に蓄積・共有・公開、および長期保管するデータマネジメント環境を調査研究しています。

【メンバー】

梶田将司	京都大学学術情報メディアセンター 教授 (情報環境学)
家森俊彦	京都大学名誉教授 (データベース)
原正一郎	京都大学東南アジア地域研究研究所 教授 (情報学)
永益英敏	京都大学総合博物館 教授 (植物分類学)
松井啓之	京都大学図書館機構 副機構長 (経営管理)
天野絵里子	京都大学学術研究支援室 リサーチアドミニストレータ (情報学)
青木学聡	京都大学学術情報メディアセンター 准教授 (情報基盤工学)
元木 環	京都大学学術情報メディアセンター 助教 (情報デザイン)
能勢正仁	名古屋大学宇宙地球環境研究所 准教授 (地球電磁気学)



▶企画内容1 (ワークショップ、セミナーなど)

第1回京都大学研究データマネジメントワークショップ (略称「京大 RDM WS」)

2018年10月6日 (土)

京都大学 理学研究科セミナーハウス

[上記メンバー以外の参加者]

齋藤 歩*	京都大学総合博物館 特定助教 (アーカイブズ)
金尾政紀	情報・環境システム機構 教授 (データサイエンス)
込山悠介*	国立情報学研究所 助教 (コンテンツ基盤)
田窪行則	国立国語研究所 所長/京都大学名誉教授 (言語学) 他

趣旨：欧米では近年、アカデミックデータに関わる研究費の申請の際に、研究データマネジメントプランの提出を義務づけられるようになってきており、資金配分を受ける研究組織においては研究データ支援環境の整備・強化が進んでいます。第1回目となる今回のワークショップでは、カリフォルニア大学のカリフォルニア・デジタル・ライブラリーの Research Data Specialist の Stephanie Simms 博士をお迎えして、米国の最新の状況を講演していただきます。その後、参加者から個別の研究データの状況を報告していただくとともに、主催者側で用意した方法論を共有していただきます。

2回のワークショップを通して、京都大学の多様な研究分野に適用可能な研究データマネジメントに関する手法を整備していく予定です。

10:00~11:00	Invited Talk "Support Your Data" Stephanie Simms
11:00~12:00	Preparations for Hands-on Workshop
12:00~13:30	Lunch
13:30~15:30	Hands-on Workshop
15:30~16:00	Break
16:00~17:00	Reports and Wrap-up



▶企画内容2 (ワークショップ、セミナーなど)

第2回京都大学研究データマネジメントワークショップ (略称「京大 RDM WS」)

2019年2月28日(木)

京都大学 理学研究科セミナーハウス

[上記メンバー以外の参加者]

上のワークショップ参加者のうち、* を付した参加者

川口朋子 京都大学アカデミックデータ・イノベーションユニット 研究員 (歴史学)

加納靖之 東京大学地震研究所 准教授 (防災学)

倉田敬子 慶応義塾大学 教授 (図書館情報学)

村山泰啓 国立研究開発法人情報通信研究機構 研究統括

山中節子 京都大学附属図書館学術支援課 課長 (情報学)

原正一郎 京都大学東南アジア地域研究所 教授 (情報学)

趣旨：本ワークショップでは、研究データの所在を共有できる「京都大学研究データマップ」を作成します。そして、京都大学において分野横断的に利用可能な「京都大学研究データマネジメント成熟度モデル」を構築し、それぞれの分野のRDMPスキル状況が一目でわかる「京都大学研究データマネジメントルーブリック」を作成します。これにより、多様な研究分野に適用可能な研究データマネジメントに関する標準的な手法を整備し、研究データマネジメントを通じて学際融合の可能性に満ちた土壌を京都大学に育むことを試みます。

10:20~10:30 ユニット長挨拶 梶田将司

10:30~12:00 報告「京都大学におけるデータマネジメントの現状」

ーアンケート調査・ヒアリング調査報告 川口朋子

ー京大データマップ初版・アンケート第2段の案 家森俊彦

ーデータマネジメントに関するルーブリック紹介 青木学聡

ーワークショップ (からの意見収集)

12:00~13:30 ランチ (葛ユニット運営協議会を別室にて開催)

13:30~14:10 招待講演「研究データマネジメントの現状と課題」村山泰啓

14:10~15:00 パネルディスカッション「京都大学における研究データマネジメントのあり方」司会：梶田将司

前半：話題提供

ー学認 RDM 込山悠介

ー京都大学における情報環境の現状 青木学聡

ー京都大学附属図書館 山中節子

15:00~15:30 休憩

15:30~16:50

後半：ディスカッション

パネリスト：上記話題提供者、原正一郎、他

16:50~17:00 まとめ

「京都大学におけるアカデミックデータマネジメント環境に関する 提言策定に向けて」



食とクラフト研究会

クラフトビールにクラフトジン。ヒトはなぜある食べ物を好み食すのか、「クラフト」という概念を軸に政治・経済・文化・社会的な視点から食を分析します。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/クラフト研究会/>

「クラフト」とは何なのか、なぜ「クラフト」が生産者・消費者の両者から注目を集めているのか。食が「クラフト」として生産・認知・消費される過程について、特に人間の「感覚」の変化と背景にある文化社会性との関係、および地域性や手作りなどにこだわった「クラフト食品」を利用した地域活性化や地域産業の再生などの可能性について検討します。クラフトビールなど食のクラフト性について、「地域と食」「感覚」の2つの視点からこれまでにない学際的な食研究の実現を目指します。

【メンバー】

- 久野 愛 京都大学経済学研究科 講師（経営学）
檀浦正子 京都大学農学研究科／地球環境学 助教（生態系生産動態論）
山内 裕 京都大学経営管理大学院 准教授（経営学）
鬼塚健一郎 京都大学農学研究科／地球環境学 助教（持続的農村開発論）
平賀 緑 京都大学経済学研究科／経済学部経済資料センター 研究員（経済学）
大澤由実 国立民族学博物館 機関研究員（文化人類学、民族植物学）
吉積巳貴 立命館大学食マネジメント学部 准教授
（都市・農村計画学、環境マネジメント）

▶企画内容1（ワークショップ、セミナーなど）

第一回食とクラフト研究会

2018年10月15日(月)

京都大学 法経東館 8階 リフレッシュルーム

- 14:00～14:30 はじめに「食とクラフト研究会について」
14:30～15:30 「クラフトビールの生産・認知・消費課程」
山田聡昭（酒文化研究所第一研究室 室長）
15:30～16:30 「テロワール・メロワールの創成課程からみる風土と食の関係性」
濱田信吾（大阪樟蔭女子大学学芸学部 准教授／文化人類学）
16:30～17:30 ディスカッション

▶企画内容2（ワークショップ、セミナーなど）

第二回食とクラフト研究会・見学会

2019年1月28日(月)

京都大学 法経東館 8階 リフレッシュルーム／京都醸造株式会社

研究会：京都大学 法経東館 8階 リフレッシュルーム

- 12:30～13:30 “Craft Beer in the US: A Production of Culture Perspective”
Nathaniel G. Chapman
（アーカンソー工科大学 准教授／人間行動学）
13:30～14:30 “The Craft of Kyoto Kaiseki Cuisine”
Greg De Saint Maurice（大阪市立大学生活科学研究科・
生活科学研究科 特任准教授／文化人類学）

第一回
食とクラフト
研究会

日時 2018年10月15日(月) 14:00~17:00
場所 京都大学法経東館8階 リフレッシュルーム

はじめに 「食とクラフト研究会について」

講演1 クラフトビールの生産・認知・消費過程(仮)
酒文化研究所 山田 聡昭

講演2 テロワール・メロワールの創成過程からみる風土と食の関係性(仮)
大阪樟蔭女子大学 学芸学部 濱田 信吾

ディスカッション

主催: 食とクラフト研究会
協力: 京都大学酒類総合教育研究推進センター
研究大学強化推進事業「百家争鳴」プログラム
問合せ: 京都大学経済学研究科 久野 愛 ahisano@econ.kyoto-u.ac.jp

第二回
食とクラフト
研究会

日時 2019年1月28日(月) 12:30~14:30
場所 京都大学法経東館(8階) リフレッシュルーム

講演1 ナサニエル・チャップマン（アーカンソー工科大学）
“Craft Beer in the US: A Production of Culture Perspective”

講演2 グレグ・セーリス（大阪市立大学）
“The Craft of Kyoto Kaiseki Cuisine” (仮)

(訳注: ディスカッションは全て英語です)

「クラフト」とは何なのか、なぜ「クラフト」が生産者・消費者の両者から注目を集めているのか。食が「クラフト」として生産・認知・消費される過程について、特に人間の「感覚」の変化と背景にある文化社会性との関係、および地域性や手作りなどにこだわった「クラフト食品」を利用した地域活性化や地域産業の再生などの可能性について検討します。クラフトビールなど食のクラフト性について、「地域と食」「感覚」の2つの視点からこれまでにない学際的な食研究の実現を目指します。

主催: 食とクラフト研究会
協力: 京都大学酒類総合教育研究推進センター
研究大学強化推進事業「百家争鳴」プログラム
問合せ: 京都大学経済学研究科 久野 愛 ahisano@econ.kyoto-u.ac.jp

見学会：京都醸造株式会社（京都市南区西九条高島町）

15:00～16:30 見学

16:30～16:40 Nathaniel G. Chapman 准教授よりフィードバック

16:40～16:50 Greg De Saint Maurice 特任准教授よりフィードバック

16:50～17:00 総括

▶企画内容3（ワークショップ、セミナーなど）

第三回食とクラフト研究会

2019年2月27日(水)

京都大学 経東館8階リフレッシュルーム

18:00～19:00 「サービスの文化とデザイン食

ーサービスから考えるクラフトの意味ー」

山内裕（京都大学経営管理大学院 准教授）

19:00～20:00 「日本とクラフトビール」

クリス・ヘインジ（京都醸造株式会社）



▶企画内容4（ワークショップ、セミナーなど）

有本農園見学

2019年3月8日(金)

有本農園（和歌山県日高郡みなべ町東岩代 872-3）

<https://plumeister-arimoto.com>

[上記メンバー以外の参加者]

久野秀二 京都大学経済学研究科 教授

Lucas Stefanus Mencke ワーヘニンゲン大学 修士課程/京都大学経済学研究科 特別研究学生（2019年2～4月）

Greg De Saint Maurice 大阪市立大学生生活科学部・生活科学研究科 特任准教授

山田聡昭 酒文化研究所第一研究室 室長

11:30 有本農園到着

11:30～12:30 農園見学

12:30～14:00 昼食

14:00～16:00 有本氏講演

16:00～18:00 みなべ梅酒ツアー視察

18:00～18:15 意見交換

18:15 有本農園出発

Thai Kingship Project

文化人類学者と歴史学者が歴史のイベントを学際的に描くことを試みます。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/death-of-an-immortal-king/>

Thailand's King Bhumibol Adulyadej passed away on 13 October 2016, after seven decades on the throne. He was the world's longest serving head of state. The monarch was a Buddhist king and many understood him to be a divine being. He was also a political leader and a figure of great historic importance.

Historian Matthew Phillips and anthropologist Edoardo Siani met, by chance, in Bangkok as they were both attending the rituals that followed the royal death.

Their shared experience of said rituals forms the basis for a dialogue regarding how events may be studied from a multidisciplinary perspective.

Phillips and Siani will discuss the relationship between ethnography and historical record as well as the process of jointly writing an ethnography, in an attempt to question our assumptions of what events are.

【メンバー】

Edoardo Siani 京都大学東南アジア地域研究研究所 特定研究員

Matthew Phillips 英国アベリストウィス大学 准教授



▶企画内容（ワークショップ、セミナーなど）

Death of an Immortal King: A Multidisciplinary Approach to the Study of Events

2018年12月11日（火）

京都大学 東南アジア地域研究研究所 稲盛財団記念館2階セミナー室（213）

趣旨：タイの歴史を書く際に、文化人類学的手法、文化人類学的な体験をどう取り入れられるか？ 文化人類学者の視点からは、王が死んだ日はいつも通りの日常だった。王の死はイベントではなく継続する経験と捉えられる。イベントは存在しない、私たちが書いてつくる。ワークショップでは3つの日 — 王の死の当日、王が病院から王宮へ運ばれた死の翌日、1年後に王が埋葬された日 — に焦点を当てる。文化人類学者と歴史学者が、それぞれの視点からの経験どんな詳細を大事だと思うかなどを交互に話す対話形式で発表を行うことにより、二人の見方において異なる部分、同じ部分をあぶりだす。

17:00~18:40 “Death of an Immortal King: A Multidisciplinary Approach to the Study Event”
Edoardo Siani, Matthew Phillips

18:40~19:00 Discussion

Death of an Immortal King: A Multidisciplinary Approach to the Study of Events

「不滅の王」の死：学際的アプローチで考える

Thailand's King Bhumibol Adulyadej passed away on 13 October 2016, after seven decades on the throne. He was the world's longest serving head of state. The monarch was a Buddhist king and many understood him to be a divine being. He was also a political leader and a figure of great historic importance. Historian Matthew Phillips and anthropologist Edoardo Siani met, by chance, in Bangkok as they were both attending the rituals that followed the royal death. Their shared experience of said rituals forms the basis for a dialogue regarding how events may be studied from a multidisciplinary perspective. In this workshop, Phillips and Siani will discuss the relationship between ethnography and historical record as well as the process of jointly writing an ethnography, in an attempt to question our assumptions of what events are.

世界でも類のない70年という長きに渡り継続したタイ国王ラーマ九世の崩御。この出来事を歴史家マシュー・フィリップスと人類学者エドアルド・シアーニが、それぞれの専門的知見からの対話により学際的に描き出していく。

Tuesday, 11th December, 2018
17:00-19:00 (Door Opens at 16:30)
Inamori Foundation Memorial Hall (# 213)
CSEAS, Kyoto University
Language: English Admission Free

2018年12月11日（火）17:00~19:00 (16:30 開場)
京都大学東南アジア地域研究研究所
稲盛財団記念館2階セミナー室（213）
言語：英語 参加無料

[PROGRAM]
17:00-18:40 “Death of an Immortal King: A Multidisciplinary Approach to the Study of Event”
Edoardo Siani, Matthew Phillips
18:40-19:00 Discussion



Edoardo Siani
京都大学東南アジア地域研究研究所 特定研究員
an anthropologist who writes about Buddhism and power in contemporary Thailand. Based in Bangkok since 2002, he received his PhD from SOAS, University of London, and is a current researcher at Kyoto University. Edoardo previously taught anthropology at SOAS and Thammasat University. He has contributed to media outlets, including The New York Times, BBC and Associated Press.



Matthew Phillips
英国アベリストウィス大学 准教授
a Lecturer in Modern Asian History at Aberystwyth University in the United Kingdom. He is currently engaged on a two year secondment at the UK Foreign and Commonwealth Office as a Senior Research Analyst, covering Thailand, Burma, Cambodia and Laos. Matthew has published on a range of topics on the cultural Cold War in Thailand. He has also written for a number of media outlets including The New York Times.

While registration is not obligatory, please fill out the registration form in as much as possible for the convenience of organizer.
※参加料は不要ですが、学際的な対話のため、できるだけお申し込みください。

Supported by 京都大学学際融合教育研究推進センター-C²R2
Contact: edosiani@cseas.kyoto-u.ac.jp

地中海研究・イスラーム思想研究架橋のための国際的連携構築研究会

地中海研究分野に新たなアプローチを生み出すために、アジアの地中海研究者が京都に集合します。この学術的な試みにあなたも参加しませんか！

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/アジアからのアプローチによる地中海研究構築のための国際的連携構築/>
[関連情報] <http://www.afomedi.org/>

本グループは、イスラーム学とイスラーム思想分野において世界に向けて発信している「京都大学イスラーム地域研究センター (KIAS)」と「京都大学ケナン・リファーイー・スーフィズム研究センター (KR)」に所属する研究者たちによって構成されています。

【メンバー】

- 東長 靖 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 (イスラーム学、イスラーム地域研究)
ダニシマズ・イディリス 京都大学イスラーム地域研究センター 研究員／
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 客員准教授 (イスラーム学、イスラーム地域研究)
藤井千晶 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 特任准教授／
京都大学ケナン・リファーイー・スーフィズム研究センター 上級主席研究員 (地域研究、人類学)
二ツ山達朗 平安女学院大学 准教授 (中東地域研究、宗教人類学)

▶企画内容 (ワークショップ、セミナーなど)

The II. International Conference of the Asian Federation of Mediterranean Studies Institutes

2018年12月23日 (日)

京都大学 稲盛財団記念館 大会議室、中会議室、小会議室1-2

趣旨：アジアにおける6カ所の研究機関間の学術的交流の強化と継続のために創立された「地中海研究機関アジア連合 (Asian Federation of Mediterranean Studies Institutes [以下 AFOMEDI])」の第二回の国際研究会を、京都大学イスラーム地域研究センター (KIAS) の主催で開催することによって、地中海世界とイスラーム世界の新しい理解に資する国際的な学問創造のプラットフォームの構築に貢献します。

- 9:50~10:00 Opening Remarks CHOI Choon-Sik & TONAGA Yasushi
10:00~12:00 Session 1
—History and Prospectus of the Mediterranean Studies
12:00~12:30 Core Time of the Poster Session
14:00~16:00 Simultaneous Session 2
—Deep Insight and Social Welfare in the Mediterranean World
14:00~16:00 Simultaneous Session 3
—Friction and Peace in the Mediterranean World
16:00~16:15 Coffee Break
16:15~18:15 Session 4
—Area Informatics and Area Studies
18:15~18:25 Closing Remarks
19:00~20:30 Reception, Cultural Event: Japanese Calligraphy Show

The poster features a map of the Mediterranean region and the following schedule:

Time	Activity	Location
9:00-9:50	Registration	(Large Size Conference Room)
9:50-10:00	Opening Remarks	(Large Size Conference Room)
10:00-12:00	Session 1: History and Prospectus of the Mediterranean Studies	(Large Size Conference Room)
12:00-12:30	Core Time of the Poster Session	(Large Size Conference Room & Conference Room 2)
14:00-16:00	Simultaneous Session 2: Deep Insight and Social Welfare in the Mediterranean World	(Large Size Conference Room)
14:00-16:00	Simultaneous Session 3: Friction and Peace in the Mediterranean World	(Medium Size Conference Room)
16:15-18:15	Session 4: Area Informatics and Area Studies	(Large Size Conference Room)
18:15-18:25	Closing Remarks	(Large Size Conference Room)

This conference is financially supported by:
○ 京都府立総合政策研究所
and organized under the auspices of the following institutions:
○ 京都府立総合政策研究所
○ 京都府立総合政策研究所
○ 京都府立総合政策研究所

宇宙医学研究グループ

宇宙での人への影響に興味ありませんか？宇宙医学の最前線をお伝えします！

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/https%3Awww.uss.kyoto-u.ac.jpindex.html>

宇宙という特殊環境は人体へ様々な影響を及ぼします。短期～長期の宇宙滞在の影響を分野別に議論していきます。

[メンバー]

- 寺田昌弘 京都大学宇宙総合学研究ユニット 特定准教授（宇宙医学、有人宇宙学）
- 土井隆雄 京都大学宇宙総合学研究ユニット 特定教授（有人宇宙学、宇宙工学、天文学）
- 水村好貴 京都大学宇宙総合学研究ユニット 特定助教（ガンマ線天文学）
- 辻廣智子 京都大学宇宙総合学研究ユニット 特定職員
- 出口雅規 京都大学宇宙総合学研究ユニット 技術補佐員
- 横田真知子 京都大学宇宙総合学研究ユニット 事務補佐員
- 山本晃子 京都大学宇宙総合学研究ユニット 事務補佐員

▶企画内容（ワークショップ、セミナーなど）

人類の宇宙進出時に必要となる宇宙医学・生物学研究

2019年1月11日（金）

京都大学 理学研究科セミナーハウス

趣旨：多くの有人宇宙ミッションが計画されており、宇宙医学は益々重要になってきます。これまでの宇宙医学研究は健康な宇宙飛行士を対象としてきましたが、これからは一般人も宇宙を目指す時代になります。そこで、現在の宇宙医学が短期・中期・長期間の宇宙滞在についてどのように対応できるのかなどを、各分野の専門家を集めて議論します。

- 10:00～10:10 開会の挨拶 寺田昌弘（京都大学宇宙総合学研究ユニット 特定准教授）
- 10:10～10:35 「電離放射線の健康影響」浜田信行（電力中央研究所 主任研究員／放射線影響）
- 10:35～11:00 「フライトサージェンの役割」嶋田和人（JAXA 筑波宇宙センター 医長／宇宙医学）
- 11:00～11:25 「心循環器への影響②」田中邦彦（岐阜医療科学大学 教授／心循環系）
- 11:25～11:50 「筋骨への影響」志波直人（久留米大学 教授／リハビリテーション）
- 11:50～12:15 「宇宙飛行士のリハビリテーション」山田深（杏林大学 准教授／リハビリテーション）
- 12:15～13:30 ランチタイム
- 13:30～13:55 「心循環器への影響①」岩瀬敏（愛知医科大学 教授／心循環器系、神経系）
- 13:55～14:20 「民間宇宙旅行」関口千春（明星会東条病院 医師／宇宙医学）
- 14:20～14:45 「閉鎖環境影響」井上夏彦（JAXA 主任開発員／閉鎖環境）
- 14:45～15:10 「宇宙酔いメカニズム」野村泰之（日本大学 診療准教授／耳鼻咽喉科、宇宙酔い）
- 15:10～15:20 休憩（グループ討論準備）
- 15:20～16:20 グループ討論
（骨格系影響、心理的影響、心循環影響）
- 16:20～16:55 グループ発表・まとめ
- 16:55～17:00 閉会の挨拶



宇宙ユニット 京都大学宇宙総合学研究ユニット
分科別プラットフォーム構築推進 宇宙医学ワークショップ
人類の宇宙進出時に必要となる宇宙医学・生物学研究

開催日時：2019年1月11日（金）午前10時から17時
開催場所：京都大学 理学研究科セミナーハウス
<http://www.kyoto-u.ac.jp/gp/https%3Awww.uss.kyoto-u.ac.jpindex.html>

プログラム：（敬称略）
10:00-10:10 開会の挨拶（京都大学宇宙総合学研究ユニット 寺田昌弘）
10:10-10:35 電離放射線の健康影響（電力中央研究所 主任研究員／放射線影響）
10:35-11:00 フライトサージェンの役割（JAXA 嶋田和人 医長）
11:00-11:25 心循環器への影響②（岐阜医療科学大学 教授／心循環系）
11:25-11:50 筋骨への影響（久留米大学 教授／リハビリテーション）
11:50-12:15 宇宙飛行士のリハビリテーション（杏林大学 准教授／リハビリテーション）
12:15-13:30 ランチタイム
13:30-13:55 心循環器への影響①（愛知医科大学 教授／心循環器系、神経系）
13:55-14:20 民間宇宙旅行（JAXA 井上夏彦 主任開発員）
14:20-14:45 閉鎖環境影響（JAXA 井上夏彦 主任開発員）
14:45-15:10 宇宙酔いメカニズム（日本大学 診療准教授／耳鼻咽喉科、宇宙酔い）
15:10-15:20 休憩（グループ討論準備）
15:20-16:20 グループ討論（骨格系影響、心理的影響、心循環影響）
16:20-16:55 グループ発表・まとめ
16:55-17:00 閉会の挨拶

今後は選ばれた宇宙飛行士だけでなく、一般の人々も宇宙へ飛び立つ時代です。そこで本日は「宇宙医学」をキーワードに、宇宙医学とは何か？今後宇宙医学はどのように発展していけばいいのかなどを議論します。ぜひ多くの方の参加をお待ちしております。

問い合わせ先：京都大学宇宙総合学研究ユニット 寺田
E-mail: tsukada@uss.kyoto-u.ac.jp
Tel: 075-753-9665

※このWSは学際統合教育研究推進センター・分科別プラットフォーム構築事業の支援を受けています。



α×SC

スーパーだけど身近なスパコンで、研究を飛躍させてみませんか。研究しているその技術スパコンに使ってみませんか？

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/alpha×sc/>

京都大学と九州大学のスパコンセンターの教員が共同で今後のスパコンのあり方を調査、研究、議論しているグループです。

[メンバー]

深沢圭一郎 京都大学学術情報メディアセンター 准教授 (高性能計算、超高層大気)

南里豪志 九州大学情報基盤研究開発センター 准教授 (並列計算)

▶企画内容 (ワークショップ、セミナーなど)

α×SC2019K 通信・ネットワークとスーパーコンピュータに関するシンポジウム

2019年1月23日(水)

京都大学 学術情報メディアセンター南館 201 講義室

趣旨：なにか×スパコン (SC)」というテーマを掲げるにより、その「なにか」の分野とスパコンの分野で新しい共同研究が生まれることを期待したシンポジウムです。様々な分野にコンピュータが利用されている現在では、スパコンセンターのあり方もこれまでとは変わる必要があります。そこで、これまでのスパコン利用者だけでなく、新しい分野にスパコンを使ってもらい、より良い成果やこれまでにない成果の創出に繋がる切っ掛け作りが必要となります。今回はその「なにか」を「通信・ネットワーク」とし、スパコンとは直接的に関係の無い「通信・ネットワーク」の研究者や企業の方にもご講演いただき、「SC」と「通信・ネットワーク」でお互いに何かできることは無いかを最後に議論し、新しい可能性を見つけ出します。

13:20~13:30 はじめに

13:30~14:10 「スーパーコンピュータの中のインターコネクトネットワーク」

南里豪志

(九州大学情報基盤研究開発センター)

14:10~14:50 「KDDIの5G技術戦略と研究開発の取り組みについて」

北辻佳憲

(KDDI 総合研究所モバイルネットワークグループ グループリーダー/5G・モバイル通信関連)

14:50~15:30 「インターネット上のクラウドやコンテンツ配信を支えるネットワーク技術」

小谷大祐

(京都大学学術情報メディアセンター)

15:30~15:45 休憩

15:45~16:25 「クラウド実装における InfiniBand 利用」

鷲北賢

(さくらインターネット研究所 所長/クラウド構築技術)

16:25~17:05 「マイクロ波を用いた遠距離ワイヤレス給電の研究開発現状」

篠原真毅

(京大大学生存圏研究所 教授/宇宙発電マイクロ波伝送関係)

17:05~17:45 「映像IoTと大規模深層学習」

村田健史

(情報通信研究機構 研究統括/データ科学、高速通信)

17:45~18:30 総合討論

18:30~19:00 まとめ

2019年1月23日(水)
京都大学学術情報メディアセンター
南館201講義室

通信・ネットワークとスーパーコンピュータに関するシンポジウム

スパコンと「何か」の分野を掛け合わせて新しい共同研究を生む

様々な分野にコンピュータが利用されている現在では、スパコンセンターのあり方もこれまでとは変わる必要があります。そこで、新しい分野にスパコンを使ってもらい、より良い成果やこれまでにない成果の創出に繋がる切っ掛け作りが必要となります。今回はその「なにか」を「通信・ネットワーク」とし、スパコンとは直接的に関係の無い「通信・ネットワーク」の研究者や企業の方にもご講演いただき、「SC」と「通信・ネットワーク」でお互いに何かできることは無いかを最後に議論し、新しい可能性を見つけ出します。

参加登録不要

13:20	はじめに
13:30~14:10	講演者：南里豪志 (九州大学 情報基盤研究開発センター) 講演題目：スーパーコンピュータの中のインターコネクトネットワーク
14:10~14:50	講演者：北辻佳憲 (KDDI総合研究所 モバイルネットワークグループ) 講演題目：KDDIの5G技術戦略と研究開発の取り組みについて
14:50~15:30	講演者：小谷大祐 (京都大学 学術情報メディアセンター) 講演題目：インターネット上のクラウドやコンテンツ配信を支えるネットワーク技術
15:30~15:45	休憩
15:45~16:25	講演者：鷲北賢 (さくらインターネット株式会社/さくらインターネット研究所) 講演題目：クラウド実装におけるInfiniBand利用
16:25~17:05	講演者：篠原真毅 (京大大学生存圏研究所) 講演題目：マイクロ波を用いた遠距離ワイヤレス給電の研究開発現状
17:05~17:45	講演者：村田健史 (情報通信研究機構) 講演題目：映像IoTと大規模深層学習
17:45	総合討論
18:30	まとめ
19:00	終了

主催：京都大学学術情報メディアセンター
共催：九州大学情報基盤研究開発センター
協力：京都大学学術情報メディアセンター
問い合わせ：深沢 (shizawa@media.kyoto-u.ac.jp)

サイバー・デモクラシー

デジタルツインコンピューティングにおける新しい倫理と自由

サイバー空間が拡大・深層化するなかでリアル空間がどのような変容を遂げるか、またそれら二つの空間が交錯する世界を律する倫理と自由はどのようなものか、社会実装を念頭において構想します。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/サイバー・デモクラシー～デジタルツインコンピューティングにおける新しい倫理と自由/>
本グループは、リアル空間とサイバー空間の交錯にかかわる民主主義の諸課題に対応すべく、民主主義政体の進化・拡大に必要な行動規範・サイバー関連条約等を検討するとともに、それらに必要なサイバー・プラットフォーム（巨大ITビジネス）に対する政府の規制方法の枠組みを検討します。

[メンバー]

坂出 健 京都大学経済学研究科 准教授（国際安全保障、民主主義外交）
出口康夫 京都大学文学研究科 教授（哲学、倫理学）
武田秀太郎 京都大学大学院総合生存学館 特任助教（核融合）
服部 崇 京都大学経済研究所 准教授（国際政治経済学）

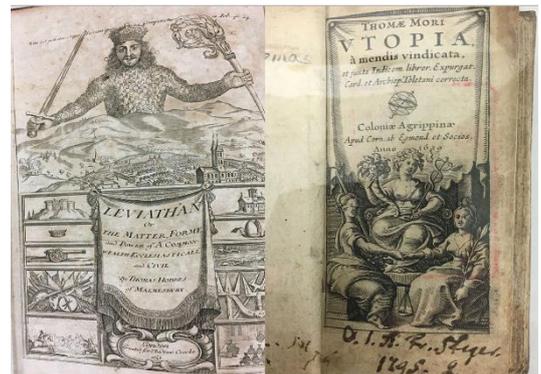
▶企画内容1（ワークショップ、セミナーなど）

The Cyber Democracy Seminar 2019 #1

2019年9月8日（日）

京都大学 法経総合研究棟8階リフレッシュルーム

13:30-14:00 「サイバー・デモクラシー～Real/Digital Twin Computing における倫理と社会実装」 坂出健（京都大学）
14:00-15:00 「国際課税とGAF A 規制」 篠田剛（立命館大学）
15:00-16:00 「公取法・国際競争法調整とGAF A」 水野里香（横浜国立大学）
16:00-16:30 「GAF A 規制と個人情報（プライバシー）ーレオ・シュトラウスの自然権思想からー」 谷口創一（京都大学）
16:30-17:00 「サイバーデモクラシーと検閲（censorship）」 坂出健（京都大学）
17:00-17:30 討論「5Gサイバー空間における民主主義・プラットフォーム」



▶企画内容2（ワークショップ、セミナーなど）

The Cyber Democracy Seminar 2019 #2（近衛茶会）

2019年11月10日（日）13:00～18:00

京都大学 法経総合研究棟7階小会議室

「権威論について」 坂井礼文（京都外国語大学）
「西田哲学について」 横山泰三（桃山学院大学）
「投機的実在論について」 坂出健（京都大学）

概要：サイバー・デモクラシーのコア・コンセプトである技術と社会の関係について、西田・田邊・左右田など京都学派に関わる哲学者の論争、コジェーヴ・アーレントなど西洋哲学の論争について検討した。哲学・思想を研究する若手研究者のチーム形成の機会となった。

▶企画内容3 (ワークショップ、セミナーなど)

The Cyber Democracy Seminar 2019 #3

2019年11月29日(金)

京都大学 東一条館1階コミュニティラウンジ

トークセッション「メディアイノベーション：エストニアの電子政府を問う」

Indrek Ibrus (エストニア・タリン工科大学 教授)

坂出健 (京都大学 准教授)

土佐尚子 (京都大学 特定教授)

中津良平 (京都大学 教授)

学生も適宜参加

概要：メディア論の視点からエストニアが電子政府を経験してどう変わったかを討議した。

【共催】京都大学総合生存学館アートイノベーション研究会／

京都大学国際安全保障研究会 (KUSS) ／応用哲学倫理学教育研究センター (CAPE)

▶企画内容4 (ワークショップ、セミナーなど)

大学サイバー・ガバメント&セキュリティ・ワークショップ

2019年12月1日(日) 13:30～17:30

京都大学 法経済学部東館8階リフレッシュルーム

挨拶 出口康夫 (京都大学文学研究科)

報告 Indrek Ibrus (タリン工科大学)

コメント1：電子政府・投票について 湯淺壱道 (情報セキュリティ大学院大学)

コメント2：サイバー・セキュリティについて 西正典 (ニッセイ)

討論

司会 南和志 (大阪大学公共政策大学院)

概要：日本と世界の社会の喫緊の課題であるサイバー・ガバメント&セキュリティについて、エストニア・タリン工科大学 Indrek Ibrus 教授からこの分野でのエストニアの先進的な経験を聞き、国内識者が討議を行った。

【共催】京都大学国際安全保障研究会 (KUSS) ／応用哲学倫理学教育研究センター (CAPE)

英語能力測定研究者ネットワーク

英語能力測定テストは他国でどう活用されているかご存知でしょうか？ 英語能力測定テストは、入学者選抜だけでなく、授業におけるフィードバックにも活用でき、専門教育の質を高める手段になりえます。高等教育における活用事例とともに世界的な傾向について共に学び考えませんか？

http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/english_n/

【メンバー】

- 西川美香子 工学研究科附属基盤教育研究センター 講師（応用言語、英語教育）
堀口由貴男 工学研究科機械理工学専攻機械システム創成学講座 助教（認知工学）
Gordon Allan British Council (Tokyo)・Program Chair, New Directions in Language Assessment, Yokohama (2019)
(英語教育：Language Assessment)
安田知恵 British Council (Tokyo) 試験部長（英語教育：Language Assessment）

▶企画内容（ワークショップ、セミナーなど）

New Directions, 2019 Kyoto Workshop Linking Language Assessment, Teaching and Research

2019年9月19日（木）

{Morning} KUINEP Lecture Hall, Kyoto University

{Afternoon} Institute for Liberal Art and Science (ILAS), Kyoto University

趣旨：本企画は、英語能力測定の専門家と異なる学術領域の教育者らが集い、日々の授業で直面する課題について話し合う『分野横断型』の参加型ワークショップです。英語能力測定テストの運用と研究開発が世界的にどのように進められているかについて学ぶと共に、他国での高等教育における活用事例に関する知識共有の場を提供します。学習者の英語習熟度を把握することがどのように授業運営に役立つかやその課題について、参加者間の有益な情報交換を促します。

10:15～10:30 Opening Remarks

Professor Takehiko Yokomine

(Director of Engineering Education Research Center, Graduate School of Engineering)

10:30～11:30 Morning Lecture on the Relationships between Language Assessment, Teaching, and Research

Professor Barry O'Sullivan (Head of Assessment Research & Development, British Council)

13:00～13:40 Short Presentations

Vahid Aryadoust (National Institute of Education, Singapore)

Suh Keong Kwon (Korea Institute for Curriculum and Evaluation [KICE], South Korea)

Gordon Allan (East Asia, Assessment Solutions Team [EAST], The British Council)

13:45～14:45 Group Discussions

Group 1: Assessment and Inclusion, facilitated by Gordon Allan

Group 2: Implementing Performance Assessment, facilitated by Sheryl Cooke

Group 3: Technology in Language Assessment, facilitated by Robin Skypesy

14:45～15:00 Short Break

15:00～16:00 Sharing Ideas & Feedback

【共催】ブリティッシュ・カウンシル／京都大学工学研究科／学際融合教育研究推進センター

NEW DIRECTIONS, 2019
KYOTO WORKSHOP
Linking Language, Assessment, Teaching and Research
September 19th, 2019

Keynote Lecture by Professor Barry O'Sullivan and Invited Lectures

Parallel Discussions in the afternoon, featuring three topics

1. Implementing Performance Assessment
2. Implementing Performance Assessment
3. Technology in Language Assessment

Co-hosted by The British Council and Graduate School of Engineering, Kyoto University
The Center for the Promotion of Interdisciplinary Education Research (CPiER)

GIFT project

「死者からの遺伝情報(ギフト)をご家族へ」を掲げ、遺伝学的剖検による新しい予防医療の体制を築きます。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/gift> プロジェクト/

GIFT (Genetic Information for Family prevenTion) project は、家系内での心臓突然死の再発予防を目的に、亡くなった方への遺伝学的剖検とご家族への遺伝カウンセリングの体制構築を目指して結成された医学系研究者と倫理学研究者の集団です。

【メンバー】

- 西垣昌和 京都大学医学研究科人間健康科学系専攻 特任教授
(基礎看護学、遺伝看護学、遺伝カウンセリング、予防医療学)
- 石見 拓 京都大学環境安全保健機構 附属健康科学センター 教授 (循環器内科、蘇生科学、予防医療学)
- 小谷泰一 京都大学大学院医学研究科法医学講座 准教授 (法医学、乳幼児突然死症候群、児童虐待)
- 大野聖子 国立循環器病研究センター分子生物学部 部長 (遺伝性循環器疾患の病態解明)
- 児玉 聡 京都大学大学院文学研究科思想文化学専攻倫理学専修 准教授
(規範倫理学、功利主義、直観主義、生命倫理、政治哲学)
- 小杉真司 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 教授 (遺伝医療学、遺伝性腫瘍)
- 和田敬仁 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 准教授 (遺伝医療学、小児科学、神経内科学)
- 小池佳菜子 京都大学大学院医学研究科 大学院生 (遺伝カウンセリング)



▶企画内容 (ワークショップ、セミナーなど)

死者からの^{ギフト}遺伝情報を、家族へ。

2019年11月23日(土)

京都大学医学部構内 杉浦地域医療研究センター 杉浦ホール

【招聘メンバー】

- 西田尚樹 富山大学大学院医学薬学研究科法医学講座 教授
(循環器病理学、神経病理学、小児病理学、突然死の病理形態、分子生物学的研究)
- 相庭武司 国立循環器病研究センター臨床検査部 部長 (遺伝性不整脈)
- 成宮博理 京都第二赤十字病院救急救命センター 副部長 (救急、集中治療、循環器)
- 佐々木隆徳 宮城厚生協会坂総合病院救急科 科長 (救急医療、総合診療、家庭医療、医学教育)
- 前重壽郎、奈緒 当事者家族

趣旨：日本国内における心臓突然死者に対する遺伝学的剖検とそれに基づく遺伝カウンセリング体制の構築に向けて、心臓突然死にかかわる救急医、法医学者、臨床遺伝学者、倫理学者等、様々な背景を持つ研究者と臨床家が一堂に介するシンポジウム企画です。

- 13:30-13:40 オープニング
- 13:40-14:10 レクチャー① 「心臓突然死の疫学」石見拓
- 14:10-14:40 レクチャー② 「救命救急センターでの家族との関わり」成宮博理
- 14:40-15:10 レクチャー③ 「失われた命に寄り添い、命を絆ぐ」小谷泰一
- 15:10-15:20 休憩
- 15:20-15:50 当事者の方より「遺族の願い」前重壽郎さん、奈緒さんご夫妻
- 15:50-16:20 レクチャー④ 「遺伝子学的剖検の現状と課題」西田尚樹

- 16:20-16:50 レクチャー⑤ 「遺伝学的検査を突然死予防に生かす」 大野聖子
- 16:50-17:20 レクチャー⑥ 「遺伝性不整脈のトータルマネジメントーエビデンスに基づいた診断と治療」 相庭武司
- 17:30-18:10 グループワークショップ
「心臓突然死と遺伝カウンセリングー残された家族のためにー」 西垣昌和
- 指定発言：児玉聡
- 18:10-18:20 グループプレゼンテーション
- 18:20-18:30 クロージング

ギフト
死者からの遺伝情報を、
家族へ。

GIFT project Genetic Information for Family prevenTion
亡くなった方への遺伝学的剖検とご家族への遺伝カウンセリングで
家系内心臓突然死の再発予防を目指す

2019年 11月23日 (土)

13:00 開場 13:30 開始 18:30 終了
杉浦地域医療研究センター 杉浦ホール
入場無料
定員 100名

プログラム

オープニング	「心臓突然死の疫学」 石見拓 京都大学環境安全保健健康増進部門/循環器科学センター 教授
レクチャー	「救命救急センターでの家族との関わり」 成宮博理 京都第二赤十字病院救命救急センター-救急科 副部長 「失われた命に寄り添い、命を絆ぐ」 小谷泰一 京都大学大学院医学研究科法医学講座 准教授 「遺伝子学的剖検の現状と課題」 西田尚樹 富山大学大学院医学部研究科法医学講座 教授 「遺族の願い」 前重舞郎・前重奈緒 「遺伝学的検査を突然死予防に生かす」 大野聖子 国立循環器病研究センター-研究所分子生体医学部 部長 「遺伝性不整脈のトータルマネジメントーエビデンスに基づいた診断と治療」 相庭武司 国立循環器病研究センター-病態臨床教育部 部長 「心臓突然死と遺伝カウンセリングー残された家族のためにー」 西垣昌和 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻臨床看護学講座 特任教授
グループワークショップ	「心臓突然死と遺伝カウンセリングー残された家族のためにー」 西垣昌和 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻臨床看護学講座 特任教授
グループプレゼンテーション	指定発言 児玉聡 京都大学大学院医学研究科法医学講座 准教授

対象 心臓突然死で悲しむ人を減らしたい研究者・医療従事者・学生
お申し込み 11月11日(月)まで <https://forms.gle/FamuCbzF53Y2wbXaA>
お問い合わせ TEL: 090-7195-4007 Mail: koike.kanako.78x@st.kyoto-u.ac.jp

本企画は京都大学研究大学強化促進事業「百家争鳴」プログラムの支援を受けています

新しい文化政策プロジェクト（通称 文化政策プロ）

文化政策、このままでいいのか.....私たちの生き方そのものにかかわる問題として、根底から考え直してみませんか？

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/cul/>

「文化政策」が本来射程とすべき広さを取り戻すために……。研究と実践を往還する、かつてない多様性を誇るグループが発足しました。

【メンバー】

- 佐野真由子 京都大学大学院教育学研究科 教授（文化政策学、外交史・文化交流史）
朝倉由希 文化庁地域文化創生本部 研究官（文化政策、アート・マネジメント）
奥中康人 静岡文化芸術大学文化政策学部 教授（音楽学、音楽史）
蔭山陽太 THEATRE E9 KYOTO 支配人（舞台芸術プロデューサー、劇場運営）
鈴木禎宏 お茶の水女子大学 准教授（比較文化論、工芸史）
山田奨治 国際日本文化研究センター 教授（情報学、文化交流史）
山本麻友美 京都芸術センター チーフプログラムディレクター
（アート・マネジメント、現代美術）
ラプリー ジェルミー Rapple, Jeremy 京都大学大学院教育学研究科 准教授
（比較教育学）

▶企画内容（ワークショップ、セミナーなど）

新しい文化政策の構築をめざして

2019年12月7日（土）

京都大学 芝蘭会館 山内ホール

趣旨：「文化政策」を、広く捉えたい。私たちの生き方そのものにかかわる、社会づくり、国づくりの問題として。そして、学際的な人文知と、実践現場の知見を結集した、包括的な文化政策学を構想したい。とりわけここでは、この国において長く顕著であった、西洋を範とする思考方式の克服をめざしたい。そのためには、「文化政策」に該当する営みが、まだその語が存在しなかった時代を含めて、日本社会で歴史的にどのように行われてきたのか、現在どのようなことが行われ、実際に日本が得意としていることは何なのかを、あらためて客観的に、掘り起こす必要がある。これから行われるべきこと、この社会が本当に必要としていることを、そこから浮かび上がらせていきたい。.....もちろん、一回の会議で結論が出るようなことではありません。このような問題意識を形にしていく、長い道のりの第一歩にしたいと考えています。

- 13:30 開場・受付開始
14:00 開会挨拶・趣旨説明（佐野真由子）
14:10 報告1「民間劇場にとっての公共性—THEATRE E9 KYOTO の設立過程と運営の展望—」蔭山陽太
14:25 報告2「著作権法改正をめぐる力学の変化について」山田奨治
14:40 報告3「芸術文化事業の評価をめぐる課題—データ主義と芸術のジレンマ—」朝倉由希
14:55 報告4「教育政策における西洋模倣時代の終焉？—「欠如」モデルを超えて—」ラプリー ジェルミー
15:10 報告5「工芸の近現代」鈴木禎宏
15:25 休憩
15:45 報告6「公共性とアート—京都芸術センターを例に—」山本麻友美
16:00 報告7「日本音楽史のなかの西洋楽器—直輸入型と折衷型のコンフリクト—」奥中康人
16:15 報告8「原点としての『開国』外交」佐野真由子
16:30 全体討論
17:45 終了予定

Shall we continue our current approach to cultural policy? Shall we rethink it as a question of our way of living? 公開フォーラム

TOWARDS THE CREATION OF NEW CULTURAL POLICY

新しい文化政策の構築をめざして

文化政策、このままでいいのか.....私たちの生き方そのものにかかわる問題として、根底から考え直してみませんか？

2019年12月7日(土) 14:00-17:45 13:30開場

会場)京都大学 芝蘭会館 山内ホール (〒606-8501 京都市左京区吉田西陣)

定員)50名 参加無料・事前申込み制(先着順)

お申込み方法
お名前・ご所属(ご職業)・メールアドレス・連絡先電話番号を明記の上、以下のメールアドレスまでお申し込みください。
cjp_project@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
(新しい文化政策プロジェクト事務局)

京都大学 芝蘭会館から徒歩約1分(〒606-8501) 芝蘭会館 山内ホール
芝蘭会館 芝蘭会館から徒歩約1分(〒606-8501) 芝蘭会館 山内ホール
詳しくはこちらを参照してください。
<http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kyoto-u/>

主催)新しい文化政策プロジェクト(研究代表:佐野真由子 京都大学大学院教育学研究科教授)
協力)京都大学 学際融合教育推進センター(分野横断プラットフォーム構築事業)

風土・文化継承研究会

地域で取り組む人々と、様々な分野研究者（建築学、生態学、経済学、芸術学、文化人類学）の知見を集合し対等な議論ができるような環境を構築することで、創意ある展望や具体的な方針を導出することを目指します。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/風土・文化継承研究会/> [関連情報] <http://www.gea-lab.ges.kyoto-u.ac.jp/>

消失する危機がある伝統的な建築、工芸や食品の技術や文化の継業方法を模索するため、様々な分野の研究者（建築学、生態学、経済学、芸術学、文化人類学）により構成されたグループです。

【メンバー】

小林広英	京都大学地球環境学 教授（人間環境設計論）
小椋大輔	京都大学工学研究科 教授（建築学）
鬼塚健一郎	京都大学地球環境学 准教授（持続的農村開発論）
北野慎一	京都大学農学研究科 准教授（環境経済学）
吉積巳貴	立命館大学食マネジメント学部 教授（地域経営）
藤枝絢子	京都大学学術研究支援室(URA) リサーチアドミニストレーター（人間環境設計論）
仲野安紗	京都大学学術研究支援室(URA) リサーチアドミニストレーター（環境芸術学）
大澤由実	国立民族学博物館 機関研究員（文化人類学、民族植物学）
宮地茉莉	京都大学大学院地球環境学 特定助教（人間環境設計論）



▶企画内容1（ワークショップ、セミナーなど）

手もみ煎茶

手もみ煎茶セミナー

2019年12月15日（日）13:00～17:00 平安女学院 明治館

[上記メンバー以外の参加者]

上村 誠	川添茶緑茶研究会 会長
山本芳華	平安女学院国際観光学科 准教授

13:00～13:10 趣旨説明

13:10～13:40 「川添茶手もみ製茶技術の歴史と文化」 上村誠

13:40～14:00 Q&A

14:20～16:20 手もみ茶ティスティング

16:20～17:00 ディスカッション、まとめ

川添茶初もみ会

2020年1月13日（月） JA 紀南市鹿野製茶工場

[上記メンバー以外の参加者]

上村 誠	川添茶緑茶研究会 会長
Schäfer, Holger	京都大学農学研究科 教務補佐員
土田 亮	総合生存学館（思修館） 修士課程3年

08:00～12:00 手もみ作業

13:00～13:30 講演 上村誠

13:30～15:00 手もみ茶飲み比べ

▶企画内容2（ワークショップ、セミナーなど）

茅葺

キックオフ

2019年10月21日（月）13:00～14:15 美山茅葺株式会社

[上記メンバー以外の参加者]

中野 誠	美山茅葺株式会社 代表取締役
小椋大輔	京都大学工学研究科 教授（建築学）

・趣旨説明

・生い立ち～茅葺職人を目指すまで

フォローアップ

2019年11月21日（土）14:00～15:35 同左

[上記メンバー以外の参加者]

中野 誠	美山茅葺株式会社 代表取締役
------	----------------

・茅葺職人を取り巻く環境（時代背景、親方/弟子）

・茅葺の地域性

・独立以降の活動（文化財、法人化）、職人としての伝承

▶企画内容3 (ワークショップ、セミナーなど)

備長炭

キックオフ

2019年12月4日(水) 12:00~14:30 みなべ川森林組合

[上記メンバー以外の参加者]

原 正昭 みなべ川森林組合 備長炭炭焼き職人
青木友宏 みなべ町地域おこし協力隊

原氏へのヒアリングから備長炭の継承の方法を探る 1

- ・炭焼き職人の家庭で育った幼少期~青年期について
- ・都会に就職後、炭焼き職人を継ぐことを決意したきっかけ
- ・炭焼きを次々世代に継承していく方法

フォローアップ

2019年12月20日(金) 13:00~16:00 同左

[上記メンバー以外の参加者]

原 正昭 みなべ川森林組合 備長炭炭焼き職人
青木友宏 みなべ町地域おこし協力隊

原氏へのヒアリングから備長炭の継承の方法を探る 2

- ・次世代継承に力を入れている「やまづくり塾」の体制
- ・地図を用いて拓伐の範囲を把握し資源管理する方法

▶企画内容4 (ワークショップ、セミナーなど)

最終ワークショップ

2020年1月7日(火) 16:30~18:30

京都大学 総合研究3号館4階会議室

16:30~16:45 趣旨説明

16:45~17:15 茅葺報告&質疑応答

17:15~17:45 備長炭報告&質疑応答

17:45~18:15 手もみ煎茶報告&質疑応答

18:15~18:30 総括&今後に向けて

1. 伝統的生業の概要説明

歴史的な成り立ち、伝統技術の内容

2. 伝統的生業活動の取り組み

取り組んだきっかけ、取り組み時の衰退状況、これまでに至る活動

3. 現代社会における継続的活動の可能性

地域生業(スモールビジネス)としての現代市場への適応と今後の展開について

4. ソーシャルデザインのフレームワーク提示

伝統的生業が現代・未来社会に受容されるしくみづくりについて提示、ラストワンのビジョン

5. 将来展望への議論

プロジェクトメンバー間のディスカッション記録

6. フォト記録

インタビュー、生業活動の記録"



アジア太平洋地域キリスト教関連資料活用ネットワーク

ハワイにおけるキリスト教コミュニティや、日本を含むアジアでの布教活動についての資料を基盤に、分野を横断しての研究者間の交流をはかります。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/asia/>

アジア太平洋地域でのキリスト教布教活動に関連する資料を多様な分野の研究に活かすため、情報交換を行います。

【メンバー】

- 家入葉子 京都大学文学研究科 教授（英語学）
芦名定道 京都大学文学研究科 教授（キリスト教）
吉田 亮 同志社大学社会学部 教授（宗教学、神学、教育学）
Stig Lindberg カメハメハ高校 日本語講師（キリスト教）
洪 伊杓 明治学院大学 非常勤講師（キリスト教）
福永真理子 京都大学文学研究科 博士課程2回生（英語学）
守家 輝 京都大学文学研究科 博士課程2回生（英語学）



▶企画内容（ワークショップ、セミナーなど）

移住と伝播—アジア太平洋地域におけるキリスト教関連資料、およびその活用—

2020年1月11日（土）

京都大学 文学研究科 第6講義室

13:30～13:40 開会 家入葉子

13:40～14:40 参加者による報告①

「19-20世紀朝鮮半島における日米キリスト者の移住と伝播」 洪伊杓

「アジア太平洋地域のキリスト教の相互交流—アメリカ・ハワイ、日本・沖縄、台湾—」 芦名定道

14:40～14:50 休憩

14:50～16:20 参加者による報告②

「19世紀ハワイのキリスト教関連資料のコーパス化、およびその言語分析」 家入葉子・福永真理子・守家輝

「ハワイの日本語形成における社会ネットワークと宗教の役割」 朝日祥之

「ハワイのキリスト教コミュニティと日本人

—安藤太郎（在ホノルル日本国総領事）を中心に—」 Stig Lindberg

16:20～16:30 休憩

16:30～17:30 参加者による報告③

「19世紀末～20世紀初頭、ハワイ・日本プロテスタント関係史

—O. H. Gulickを中心に—」 吉田亮

「シドニー・L・ギューリック—日米関係改善に向けて—」 廣部泉

17:30～17:50 全体討議（今後の展望）

17:50～18:00 閉会 芦名定道

京都大学学術研究支援室・分野横断プラットフォーム構築事業

「移住と伝播—アジア太平洋地域におけるキリスト教関連資料、およびその活用—」

アジア太平洋地域キリスト教関連資料活用ネットワークによるワークショップ
2020年1月11日（土） 於 京都大学文学研究科・第6講義室

ハワイにおけるキリスト教コミュニティや、日本を含むアジアでの布教活動についての資料を基盤に、分野を横断しての研究者間の交流をはかります。

プログラム

開会 家入葉子（13時30分～13時40分）
参加者による報告①（13時40分～14時40分）
洪伊杓 「19-20世紀朝鮮半島における日米キリスト者の移住と伝播」
芦名定道 「アジア太平洋地域のキリスト教の相互交流—アメリカ・ハワイ、日本・沖縄、台湾—」
休憩（14時40分～14時50分）

参加者による報告②（14時50分～16時20分）
家入葉子・福永真理子・守家輝 「19世紀ハワイのキリスト教関連資料のコーパス化、およびその言語分析」
朝日祥之 「ハワイの日本語形成における社会ネットワークと宗教の役割」
Stig Lindberg 「ハワイのキリスト教コミュニティと日本人—安藤太郎（在ホノルル日本国総領事）を中心に—」
休憩（16時20分～16時30分）

参加者による報告③（16時30分～17時30分）
吉田亮 「19世紀末～20世紀初頭、ハワイ・日本プロテスタント関係史—O. H. Gulickを中心に—」
廣部泉 「シドニー・L・ギューリック—日米関係改善に向けて—」

全体討議（今後の展望）（17時30分～17時50分）
閉会 芦名定道（17時50分～18時00分）
懇親会

企画実施後の展開や成果 (2017、2018 年度採択分 2020 年 1 月時点)

RNA 連絡会 (2017 年度採択)

「RNA フロンティアミーティング 2017」の開催により、下記学術集会へ順調に橋渡しができた。

活動情報

- ◆「RNA フロンティアミーティング 2018」2018 年 9 月 19 日～21 日 箱根 ホテルおかだ
<http://www.bmce.iis.u-tokyo.ac.jp/rna/index.html>
- ◆「RNA フロンティアミーティング 2019」2019 年 9 月 24 日～26 日 伊豆 IBM 天城ホームステッド
<https://sites.google.com/keio.jp/rnafrontier2019/top?authuser=0>

リアリズム文学研究会 (2017 年度採択)

「リアリズム文学研究会」ウェブサイト <https://sites.google.com/site/studiamoilrealismo/>
公開研究会企画で広がった人脈をもとに、取り組む分野、テーマ共に幅を広げて活動を継続中。

活動情報 (詳細は上記ウェブサイト参照)

- ◆研究発表会 2018 年 6 月 30 日 京都大学
「ジャコモ・レオパルディとリソルジメント」國司航佑／イタリア文学
「リアリズムとしての浮世絵受容」近藤梓／フランス文学
- ◆研究発表会 2018 年 11 月 17 日 慶應義塾大学日吉キャンパス
「絵画の流儀に任せてみるがいいードラクロワのウォルター・スコット評価とその小説の絵画化」西嶋亜美／西洋美術史
「国家と村の弁証法ーベルトルト・アウエルバッハの『村物語』における「美化」の実践」西尾宇広／ドイツ文学
- ◆シンポジウム「19 世紀文学と田舎の表象」 2019 年 1 月 26 日 京都外国語大学
「ジョルジュ・サンドの田園小説における「田舎」の表象ー農民像を中心に」村田京子／フランス文学
「世界を迎え、世界を見送るーヘアマン・バング『路傍にて』における「駅の町」の近代」奥山裕介／デンマーク文学
「幻想の西部ーマーク・トウェインが描いた田舎の虚像と実像」浜本隆三／アメリカ文学
- ◆研究発表会 2019 年 6 月 30 日 大阪大学箕面キャンパス
「ゾラ『ルーゴン=マッカール叢書』における都市空間の表象ー19 世紀の歴史叙述およびゾラの準備ノートの分析から」野田農／フランス文学
「フランドルの画家マンゾーニー『婚約者』と 17 世紀絵画のリアリズム」霜田洋祐／イタリア文学
- ◆研究発表会 2019 年 11 月 30 日 大阪大学豊中キャンパス
「読む観客、観られる作家ー19 世紀デンマークにおけるイプセン受容と「印象主義」文学の誕生」奥山裕介／デンマーク文学
「仮死とヴァンパイアーシュピンドラーの『ヴァンパイアとその花嫁』」森口大地／ドイツ文学
- ◆シンポジウム「交通と文学」2020 年 1 月 12 日 慶應義塾大学日吉キャンパス
「ディケンズと鉄道再考ー魅力、幻影、恐怖」木島菜菜子／イギリス文学
「鉄道と風景ー1868 年世代のスペイン小説において」大楠栄三／スペイン文学
「私的なものの侵犯=生成ートルストイと鉄道をめぐって」乗松亨平／ロシア文学

京都大学未来創成学国際研究ユニット (2017 年度採択)

「未来創成学国際研究ユニット」ウェブサイト <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~future/>

活動情報 (詳細は上記ウェブサイト参照)

- ◆京都大学国際シンポジウム「未来創成学の展望」2019 年 10 月 24 日～26 日 京都大学 百周年時計台記念館
- ◆京都大学国際シンポジウム「自然は考えるのか？ー自然の知をめぐる日仏間の学際的対話」
2019 年 6 月 6 日～6 月 8 日 ユネスコ パリ本部／パリ日本文化会館
- ◆第 3 回こころの健康づくりシンポジウム「こころの病とこころの癒し～癒しのはじまりとしての病～」
2019 年 12 月 14 日 日本赤十字豊田看護大学

論文

村瀬雅俊, 村瀬智子「学びと遊びの原点に迫る—自己・非自己循環理論の視点から」 *Journal of Quality Education* Vol.8, 23-52, 2017

村瀬雅俊, 村瀬智子「創造性リテラシー：自己・非自己循環理論の展開」 *Journal of Quality Education* Vol.9, 1-44, 2018
Murase, Masatoshi “A Self-Similar Dynamic Systems Perspective of “Living” Nature: The Self-nonsel Circulation Principle Beyond Complexity” In: *The Kyoto Manifesto for Global Economics: The Platform of Community, Humanity, and Spirituality* (Eds: Stomu Yamash'ta, Tadashi Yagi, Stephen Hill) Springer, pp 257-283, 2018

著書

山極壽一／村瀬雅俊／西平直 編『未来創成学の展望』ナカニシヤ出版（15編・330頁程度）2020年3月

村瀬雅俊／村瀬智子『未来共創の哲学—自己・非自己循環理論の展開—』言叢社（350頁）2020年3月

研究費

京都大学教育研究振興財団 100万円

京都大学国際シンポジウム開催経費 145万円

新移民教育研究会（2017年度採択）

事業実施後も継続的に活動を実施中。学生を巻き込んだ教育事業が研究成果としても萌芽している。

活動情報

- ◆京都市内の小中学校における移民の子を対象とした学習支援を、複数の学部から構成された学生を中心に継続中
- ◆外部講師を迎えての勉強会を開催
- ◆2018年9月11日～18日に、学習支援活動に参加する学生を対象としたフィリピン研修を、フィリピン政府在外フィリピン人委員会の協力のもと実施 [安里和晃, 本間桃里 編「京都大学アジア研究教育ユニット (KUASU) フィリピン研修派遣実施報告書 (2018年度)」2019年3月発行]

アウトリーチ

- ◆国際会議 “Stakeholders from Mekong Countries and Japan Discuss Ways to Protect the Rights of Migrant Workers from Vietnam, Cambodia and Myanmar in Japan” (2019年7月8日 東京) を Mekong Migration Network と共催
- ◆安里和晃 (企画代表者) は京都市多文化共生のまちづくり推進プロジェクトチームのアドバイザーを務めている (参考 <http://www.kyoto-daisakusen.jp/activity/index.cgi?7139>)
- ◆安里和晃 (企画代表者) は京都府や教育委員会を対象に講演も実施している

書籍

金春喜『「発達障害」とされる外国人の子どもたち—フィリピンから来日したきょうだいをめぐる、10人の大人たちの語り』明石書店 2020年2月 (学習支援活動をもとにした修士論文をまとめたもの)

日本庭園国際研究会（2015年度、2017年度採択）

計2回（2015年度、2017年度）の研究会開催により、12ヶ国40名以上の研究者の国際的なネットワークが構築された。

活動情報

本研究会の第3回の開催を計画中

研究交流

- ◆第1回の研究会に参加したラトビア大学の准教授が、2019年度6月から2月まで外国人研究者として農学研究科の柴田昌三 (企画代表者) の研究室に在籍

学会等発表

2020年度日本造園学会全国大会（2020年5月 兵庫県立大学）のミニフォーラムで本研究会の活動成果を紹介する予定

紀要編集者ネットワーク (2017 年度採択)

「紀要編集者ネットワーク」ウェブサイト <https://kiyo.cseas.kyoto-u.ac.jp/>

活動情報

- ◆第3回紀要編集者ネットワークセミナー「オープンアクセスジャーナルパブリッシングのための3時間セミナー」
(2020年3月3日の開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度開催に延期)

論文

設楽成実, 天野絵里子, 神谷俊郎「紀要の電子ジャーナル出版における連携を目指して—紀要編集者ネットワークの挑戦と課題」特集：日本の電子ジャーナル出版『情報の科学と技術』69巻11号, 510-515, 2019

Mid Climate (精神風土) 基礎研究会 (2018 年度採択)

活動情報

- ◆研究者(後藤忠徳氏 兵庫県立大学)を対象としたインタビュー 2019年3月
- ◆対話型シンポジウム「ヒトは科学的になれるのか」2019年10月28日 中部大学春日井キャンパス・国際GISセンター
- ◆公開研究会「普通の研究者のマインドって..」2019年10月29日 京都大学イノベーション棟

書籍

上野ふき「あなたの偏見はどこから? 「環境分析」からの処方箋」小山真紀/相原征代/船越高樹 編『生きづらさへの処方箋』ナカニシヤ出版 2019年2月

研究費

サントリー文化財団 2019年度研究助成「学問の方法としての研究者越境マインドの考察」代表：宮野公樹 80万円
中部大学 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2019年度共同研究助成
「マインドクライメート研究：研究者の「研究観」の形成過程と実態調査」代表：上野ふき 459,000円

レジリエンスイニシアティブ (2018 年度採択)

「レジリエンスイニシアティブ」ウェブサイト <https://resilience-initiative.com/>

活動情報 (詳細は上記ウェブサイト参照)

- ◆京都大学特別公開講座「京都コモンズの創造：森とレジリエンス～持続可能性に繋ぐ～」第1回
2018年10月11日 京都大学 東一条館
- ◆京都大学特別公開講座「京都コモンズの創造：森とレジリエンス～持続可能性に繋ぐ～」第2回
2018年10月28日 京都大学 芦生研究林(京都府南丹市)
- ◆第1回レジリエント社会創造研究会「SDGsとレジリエンス(ブレインストーミング)」2018年11月1日 京都大学 東一条館
- ◆第2回レジリエント社会創造研究会「災害とレジリエンス」2018年12月3日 京都大学 東一条館
- ◆第3回レジリエント社会創造研究会「グリーンインフラとレジリエンス」2019年2月15日 京都大学 東一条館
- ◆京都大学・日本財団森里海シンポジウム「足元から見直す、持続可能な暮らし～森里海連環学をレジリエンスで紐解く～」
2019年2月16日 京都大学 百周年時計台記念館
- ◆第4回レジリエント社会創造研究会「関係性を紐解く」2019年3月14日 京都大学吉田泉殿
- ◆第5回レジリエント社会創造研究会「教育とレジリエンス」2019年7月25日 京都大学 東一条館
- ◆第6回レジリエント社会創造研究会・ミニワークショップ「弱者と災害」の現場～レジリエンスの視点からみる教訓～
2019年11月14日 京都大学 東一条館

アウトリーチ

- ◆清水美香(企画代表者)は京都市「レジリエントシティ」と協働している

書籍

Shimizu, Mika and Allen L. Clark. 2019. *Nexus of Resilience and Public Policy in a Modern Risk Society*. Springer.

京都大学アカデミックデータ・イノベーションユニット（2018年度採択）

活動情報

◆第3回京都大学研究データマネジメントワークショップ 2020年2月27日 京都大学 理学研究科セミナーハウス

資料公開

◆2018年度に開催した第1回、第2回のワークショップ資料をインターネット上で公開

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/243898>

◆研究データマネジメント ルーブリック（Research Data Management rubric）の参考和訳をインターネット上で公開

https://github.com/kyoto-u/rdm_rubric

論文

AOKI Takaaki, KAJITA Shoji, MOTOKI Tamaki, IYEMORI Toshihiko, KAWAGUCHI Tomoko. “Promoting Common Understanding on Research Data Management using Rubric” Proc. 2019 8th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI), 387-390, July 2019 <https://doi.org/10.1109/IIAI-AAI.2019.00085>

青木学聡, 船守美穂, 松原茂樹, 結城憲司, 宮本貴朗, 西村浩二「研究データマネジメントに関する研究者アンケートの設計と実施」『情報処理学会研究報告』2020-IOT-48 巻14号, 1-7, 2020年2月 <http://id.nii.ac.jp/1001/00203410/>

学会等発表

青木学聡, 梶田将司, 元木環, 家森俊彦, 川口朋子「研究データマネジメントルーブリックによる自己評価と共通認識の醸成」第11回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM Forum 2019）, 2019年3月4日～6日, 佐世保ホテルオークラ JR ハウステンボス

食とクラフト研究会（2018年度採択）

メンバーそれぞれが、食とクラフト研究会で得られた知見やそこで生まれた人脈・ネットワークを生かし、研究会から派生した形で研究プロジェクトを行っている。

著書

大澤由実 タイのコーヒー文化について著書（共著）を執筆中

研究会等発表

久野愛 「食とクラフト研究会」に米国アーカンソー工科大学より招聘したナサニエル・チャップマン先生の招待で、2019年11月にアーカンソーで研究内容（著書）について発表

研究費

吉積巳貴 立命館大学の研究会を実施するため、ノースウエスタン大学との共同プログラムの研究費を獲得（クラフトだけに焦点を当てたものではないが、その延長線上のプロジェクト）

Thai Kingship Project（2018年度採択）

本企画をもとにした下記の著書の出版準備を進めている。本企画で扱ったタイ国王の死だけでなく、タイ新国王の戴冠も取り上げるかを検討中。ヨーロッパでの下記の学会発表では、参加者から有益なフィードバックを得られた。

著書

Edoardo Sinai と Matthew Phillips による共著を執筆中

研究会等発表

Siani, Edoardo and Matthew Phillips “Death of an Immortal King” The Struggle for Nationalism in Contemporary Thailand, 10th EuroSEAS Conference, 10-13 September 2019, Humboldt-Universität zu Berlin

地中海研究・イスラーム思想研究架橋のための国際的連携構築研究会（2018年度採択）

活動情報

- ◆SIAS/KIAS-CNRS Joint Seminar 2019 “Sufism, Sufi Orders and Saints from the Middle East to Asia”
2019年3月2日 Amphi 3, Institut national des langues et civilisations orientales INALCO, Paris
- ◆「タリーカ論研究会」2019年3月17日 上智大学 総合グローバル学部会議室
- ◆2019年度第1回「スーフィズム・聖者信仰研究会」2019年7月7日 上智大学 総合グローバル学部会議室
- ◆2019年度第2回「スーフィズム・聖者信仰研究会」2019年7月28日 上智大学 総合グローバル学部会議室
- ◆Special Lecture “Transmission of Spiritual Knowledge from Arabia to Northwest China: Ma Laichi Abu al-Futuh al-Sini and his Huasi Menhuan Sufi Order” by Dr. Florian Sobieroj 25 September 2019, Kyoto University
- ◆KIAS-KR Workshop “Middle Eastern and Islamic Studies in the East and the West” 28 October, 2019, Kyoto University
- ◆III International Conference of Asian Federation of Mediterranean Studies Institutes (AFOMEDI2020), 15-16 July 2020, Institute of History and Philology, Academia Sinica, Taipei（第3回地中海研究機関アジア連合国際シンポジウム開催確定）

論文

Ildiris Danismaz. “Tajdīd (Renewal) in Sufism: An Examination of Khālid al-Baghdādī’s Thoughts and Practices from the Perspective of Social Capital Theory” *Mediterranean Review* 12 (1), 71-94, 2019.

著書

小杉泰／黒田賢治／ニツ山達朗 編『大学生・社会人のためのイスラーム講座』ナカニシヤ出版，2018年12月
イディリス ダニシマズ『トルコにおけるイスラーム神秘主義思想と実践』ナカニシヤ出版，2019年2月
ニツ山達朗「観光研究に自覚的であるために—観光と宗教の類似点から—」毛利憲一編『観光学の未来』白川書院，186-195，2019年3月
ニツ山達朗『地球の歩き方チュニジア 2020-2021年版』ダイヤモンド社，2019年11月

研究会等発表

Futatsuyama, Tatsuro. “Rethinking Islam through Commodities: Focusing on Ordinary Muslims’ Space in Tunisia” The Symposium of Perspective on Material Culture and Middle Eastern Turn, March 2019, Iran National Museum.
ニツ山達朗「クルアーンが記されたモノはどこへ行くのか？：チュニジア南部における室内装飾具の事例から」日本中東学会第35回年次大会，2019年5月12日，秋田大学
Tonaga, Yasushi. “Ibn ‘Arabi on the objects” The symposium on ‘The Sacred Patrimony of Sufism: Architecture, Objects and Symbols from the Maghreb to Asia’ 17-18 October 2019, Institut de recherche français en Turquie, Istanbul.
Tonaga, Yasushi. “Special Lecture: Japanese Studies on Sufism ” 21 October 2019, Üsküdar University, Istanbul.
Tonaga, Yasushi. “Middle Eastern and Islamic Studies in Japan and Kyoto University” KIAS-KR Workshop on ‘Middle Eastern and Islamic Studies in the East and the West’ 28 October 2019, Kyoto.

研究費

第48回（2019年度）三菱財団人文科学研究助成「イスラームの多文化共生の知恵—周縁イスラーム世界のスーフィズムに着目して」代表：東長靖 300万円

宇宙医学研究グループ（2018年度採択）

ワークショップでの講演を通じて関係を構築した先生方の協力を得て、以下の教育プログラムを計画・実施している。また、宇宙医学系の宇宙ビジネスの相談なども開始している。

教育

- ◆「有人宇宙医学」（全15回，総合生存学館での講義）2020年度後期より，ワークショップで講演の先生方が講師を担当
- ◆「有人宇宙活動のための総合科学研究教育プログラムの開発と実践」（宇宙総合学研ユニット，文部科学省宇宙航空科学技術推進委託費）医学系の講義や実習において，ワークショップで講演された先生方と連携

産学連携

- ◆宇宙医学系の宇宙ビジネスの相談

α × SC (2018 年度採択)

活動状況

- ◆α×SC2020Q 都市計画とスーパーコンピュータシンポジウム 2020年1月10日 九州大学 情報基盤研究開発センター

産学連携

- ◆シンポジウムに参加した研究者と企業が共同研究実施中
- ◆シンポジウムに参加した別の企業との共同研究準備中

研究会等発表

深沢圭一郎「映像IoT技術による赤ちゃん見守りシステム」情報処理学会 第151回情報システムと社会環境研究発表会，
2020年2月28日，明治大学 紫紺館

京都大学 分野横断プラットフォーム構築事業
(研究大学強化促進事業「百家争鳴」プログラム)

成果報告書 NO.2 2020年3月

発行 京都大学 学術研究支援室
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-5108
URL <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学 学際融合教育研究推進センター
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-5338
URL <http://www.cpier.kyoto-u.ac.jp/>



本冊子のプロジェクトは下記サイトでも閲覧可能です。

K.U.RESEARCH「参加できる研究」

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp>